

令和元年度指定
地域との協働による高等学校教育改革推進事業
(プロフェッショナル型) 報告書
第1年次

生活文化の伝承と多世代交流
－共生のまちづくりに貢献する人材の育成－



令和2年3月
愛媛県立小松高等学校

本報告書は、文部科学省の委託事業として、愛媛県立小松高等学校が実施した令和元年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業（プロフェッショナル型）の成果を取りまとめたものです。

したがって、本報告書の複製、連載、引用等には文部科学省の承認手続きが必要です。

地域と共に、未来を創る

文部科学省からの地域との協働による高等学校教育改革推進事業（プロフェッショナル型）研究指定という朗報とともに、平成31年度（令和元年度）が始まり、1年目が経過しました。何をおいても、コンソーシアム協力機関、運営指導委員会の方々をはじめ、御協力、御指導をいただいた行政、企業、地域の方々、文部科学省、教育委員会等の関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。

本校は、創立112年を迎えた伝統校で、各学年普通科3クラスと、本県県立学校で唯一の家庭に関する専門学科、ライフデザイン科1クラスを設置しています。

研究主体となりますライフデザイン科は、明治40年に開校した小松町立実用女学校に始まります。当時としては珍しく町による設立で、より多くの女子が学べるようにと修業年限を2年とし、実業（農業・工業・商業等）ではなく、縫製、日本料理、包帯などの実生活に寄り添う実用女学校でした。当地に実用女学校が設立された理由の一つに、愛媛県で初めて設けられた女子を教える寺子屋の存在があります。その寺子屋の跡地に実用女学校が設立され、現在の本校ライフデザイン科に受け継がれています。江戸時代の先人の女子教育への強い思いから生まれた愛媛近代女子教育発祥の地に設置されている本校は、地域と共に歩み、地域に育てられてきた学校です。

これまでも地域と連携した実践的・体験的学習、家庭科技術検定への取組、介護職員初任者研修の実施など、特色ある教育活動を展開してきたライフデザイン科では、地域に根差し、地域の人々の生活を支える生活関連産業従事者、また、少子高齢化社会のニーズを支える人材の育成に努めてきました。これらの経験を基に、文部科学省の事業概要に示されてある、専門的な知識・技術を身に付け地域を支える専門的職業人を育成するため、地域の産業界等と連携・協働しながら地域課題の解決等に向けた探究的な学びを専門教科・科目を含めた各教科・科目の中に位置付け、体系的・系統的に学習するためのカリキュラム開発等に取り組んでまいります。

本校がある西条市も例にもれず少子高齢化が進んでおり、地域コミュニティにも深刻な影響を及ぼしています。本研究で取り組みたい地域課題は、生活産業や生活文化の継承、地域産業を担う人材育成、地域コミュニティの再構築です。そこで研究テーマを「生活文化の伝承と多世代交流 共生のまちづくりに貢献する人材の育成」としました。具体的には、西条市小松町が取り組んできた「椿の香りと文化」のまちづくりの活性化、瀬戸内の豊かな魚食文化の普及、生産量日本一の特産品はだか麦を使用した加工品の開発など、生活文化・生活産業の振興、多世代交流による地域コミュニティの活性化です。これらの地域の課題解決に向け探究する活動を通して、地域貢献できる実感や、協働して課題解決を図る喜び、地元への愛着を感じることで、自信をもって地域共生のまちづくりに貢献する人材を育てたいと考えています。

1年次の今年度は、まずはできるところからと夢中で取り組んでまいりました。体系的・系統的かといえはいささか心配ではありますが、2年次以降に向けて本事業への取組が充実発展するよう努力してまいりますので、関係者の皆様には今後とも変わらぬ御指導御助言を賜りますようお願い申し上げます。

令和2年3月

校長 森岡 淳二

目 次

巻頭言

目次

活動概略図

活動写真

I	研究概要	1
1	研究開発名	
2	研究開発の概要	
3	研究の目的と三つのテーマ	
4	研究組織の概要	
5	本年度の実施計画	
6	事業実施体制	
7	課題項目別実施期間	
II	研究内容	7
II-I	地域課題の発見・解決方法の研究	
1	研究の概要	
2	研究の内容	
(1)	地域課題に関する学習①	
(2)	地域課題に関する学習②	
(3)	SDGs についての学習	
(4)	エシカル甲子園 2019	
(5)	地域産業見学	
(6)	県外研修	
(7)	伝統産業研修	
II-II	伝統文化・地域特産品の研究	19
1	研究の概要	
2	研究の内容	
(1)	魚食文化の研究	
(2)	椿文化の研究	
(3)	はだか麦の研究	
II-III	多世代交流の実施	34
1	研究の概要	
2	研究の内容	
(1)	「椿千年の森」清掃活動・椿の実収穫	
(2)	まちかど家庭科室～ふらっと①～（小松未来塾）	
(3)	しげのぶ清愛園との交流会	
(4)	まちかど家庭科室～ふらっと②～（小松街なみウォークラリー）	
(5)	市内5 高校交歓会	
II-IV	成果発表	38
1	西条市公民館フェスティバル	
2	令和元年度「えひめスーパーハイスクールコンソーシアム in 東予」	
3	ホームページ掲載一覧	
III	研究の成果と今後の課題	49
1	研究の成果と評価	
2	次年度以降の課題及び改善点	
IV	関係資料	56



イメージキャラクター

愛媛県立小松高等学校 ライフデザイン科



ようせいくん

生活文化の伝承と多世代交流
共生のまちづくりに貢献する人材の育成

地域との協働による地域課題研究を通じた人材育成プログラム

コンソーシアム

小松高校

「ライフデザイン科で育成する力」

スペシャリストに必要な専門知識・技術
地域の課題解決力
地域の課題解決のためのマネジメント力
人と関わる力・コミュニケーション能力
商品開発を通じた発想力・企画力・実践力

行政

学校（大学等）

愛媛県内企業

- ・生活産業や生活文化の継承
- ・地域産業を担う人材育成
- ・地域コミュニティの再構築

地域の生活産業・生活文化

はだか麦
×
特産品

椿文化

魚食文化

まちかど家庭科室～ふらっと～

地域に根差し、共生のまちづくりに貢献できる人材

新たな価値を創造し、
主体的に行動する力

3年次

地域の生活産業・生活文化
を**広め、地域に貢献する**

- はだか麦・魚を使用したオリジナルレシピの提案と商品開発
- 椿油・椿花・椿実を使用した新たな特産品の提案と制作活動
- 地元産直市やアンテナショップでの販売活動
- HPやSNS等による情報発信で県内外への普及活動
- まちかど家庭科室～ふらっと～開催による地域コミュニティの再構築

確かな知識と技術を持ち、他者と協働して
地域に貢献する人材

小松つばき会、愛媛大学、
市内漁協、西条市と協働

2年次

地域の生活産業・生活文化
を**研究し、課題解決を図る**

- 椿・伝統的魚食文化・はだか麦×特産品の研究
- 食のコンクールへの挑戦やインターンシップの実施
- 産官学連携による商品開発・オリジナルレシピの開発
- 日本を代表する伝統工芸研修
- まちかど家庭科室～ふらっと～開催による地域コミュニティの再構築

地域資源の産業化・商品
化へつなげる技術力、企
画力、実践力を持つ人材

1年次

地域の生活産業・生活文化
を**知り、課題を考える**

- 地場産業見学（椿ハウス、魚市場、手すき和紙等）
- SDGsと地域課題について学習
- 地域人材を活用した実践的学習活動
- 異年齢者との交流による地域コミュニティ参加
- タブレットを活用した調べ学習や協働学習
- まちかど家庭科室～ふらっと～開催

学校設定科目「ライフデザイン」、
科目「課題研究」で実施
SNS等による発信

地域の伝統産業・伝統文化
に興味・関心を持ち、他者
と情報を共有して地域の魅
力を創出できる人材

活動写真



お魚料理講習会



魚を使った高校生料理コンテスト(優勝)



椿カレンダー



飲食店で提供された魚料理コンテスト優勝作品



パン作り講習会



小松高校イメージキャラクター

ようせいくん -つばきver.-



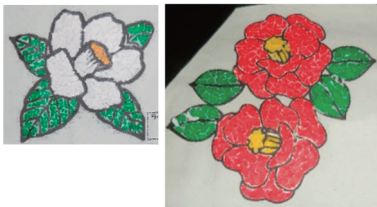
椿のリース 一種と種殻を使って



校内に咲く椿



椿の折り紙



椿のちぎり絵



卒業式 椿のコサージュ



椿のポケットティッシュカバー



椿のクッキー



研究成果展示(コンソーシアムin東予)



えひめさんさん物語 うちぬき氷プロジェクト(総合優勝)



階段アート

I 研究概要

1 研究開発名

令和元年度 地域との協働による高等学校教育改革推進事業 プロフェッショナル型（第1年次）
「生活文化の伝承と多世代交流―共生のまちづくりに貢献する人材の育成―」

2 研究開発の概要

(1) 地域課題研究を各科目に位置付け、体系的・系統的に学習するカリキュラムの研究

(2) 学習指導方法の研究

1年次 地域の生活産業・生活文化を知り、課題を考える。

2年次 地域の生活産業・生活文化、多世代交流、共生のまちづくりを研究し、課題解決を図る。

3年次 地域の生活産業・生活文化を広め、多世代交流、共生のまちづくりに取り組み、地域に貢献する。

※ 本年度は1年次の内容を実施する。

(3) 地域課題研究の評価方法の研究

(4) コンソーシアムとの連携の在り方についての研究

3 研究の目的と三つのテーマ

(1) 研究の目的

本校が位置する愛媛県西条市は、海と平野と山がそろった自然環境豊かな都市であり、四国有数の工業都市として、また、四国最大の経営耕地面積を誇る農業都市として発展してきた。しかしながら、近年地域経済の衰退による都市部への人口流出や少子高齢化が加速しており、地域コミュニティにも深刻な影響を及ぼしている。人口減少の克服、地域経済の発展、活力ある地域コミュニティの再構築などの課題が山積している。

そのような中、本校ライフデザイン科は、県立高校唯一の家庭に関する専門学科として、専門教科「家庭」を幅広く学び、将来地域社会に貢献できる生徒の育成を目指している。2年次からは、二つのコースに分かれ、ライフデザインコースでは、ライフステージにおける家族・家庭、衣・食・住などの生活課題を専門的に学習し、生活関連産業に従事できる能力を養うこと、ヒューマンサービスコースでは、高齢者の福祉と乳幼児の保育に関する専門的な知識と技術を習得し、少子・高齢社会の福祉ニーズを支える人材を育成することを目標としている。

平成27年度には、県教育委員会からの指定を受けて、「地域の担い手育成のための専門科目における指導法の研究」として、「地域のスペシャリストとして、他者と協働しながら地域に根差す生徒を育てる効果的な指導方法を整理・研究し、地域と共に育つ意識を持った生徒を育てる」という目標を掲げ、研究に取り組んだ。実施後も、家庭科専門科目だけにとどまらず、学校教育全般にわたって教育活動における実践を継続している。

本研究では、こうしたこれまでの研究を発展させ、少子高齢化や人口減少が進展する中、持続可能な社会の構築に向け、課題意識を持ち、生涯にわたって様々な人と協働しながら、地域課題の解決を目指して主体的に行動し、生活文化の継承、生活産業の振興や多世代交流、共生のまちづくりに貢献

する地域人材の育成を目的とする。

地域人材に必要な力は以下のとおりと考える。

○地域で活躍する人材として必要な専門的知識・技術

○地域の課題発見力・課題解決力

○地域の課題解決のためのマネジメント力

○他者と協働し学びを深めるコミュニケーション能力

○商品開発を通した発想力・企画力・実践力

○地域課題研究の成果をまとめ、発表する表現力

そして、育成を目指している生徒像は次のとおりである。

○地域の産業に従事し、生涯にわたって地域に貢献したいと考える生徒

○地域課題を踏まえ、共生のまちづくりのパートナーとして高度な知識技能を身に付けようとする生徒

○多様な立場の人や機関と進んで関係を構築する生徒

以上のような生徒を、コンソーシアム他と協働して取り組む地域課題研究を通して育成したい。そのため、本研究では、地域課題研究を「課題研究」だけでなく専門教科「家庭」の他の科目や「福祉」の各科目に位置付け、体系的・系統的に学習するカリキュラムや学習指導法、地域課題研究の評価方法の研究、コンソーシアムとの連携の在り方について研究する。

(2) 取り組みたいテーマ

持続可能な社会の構築に向けた視点から、地域と協働しながら課題解決に取り組みたいテーマを次の3点に設定した。

ア 「椿の香りと文化」のまちづくりの活性化

本校が位置する西条市小松町は、小松藩一柳家一万石が幕末までこの地を治めていた。儒学者で伊予聖人といわれた近藤篤山を招いて藩校「養正館」を設置するなど、教育や文化を重視した地域である。近藤篤山が「椿」を好んでおり、町民は椿を育てることで師の教えを受け継いできた。前身である小松町立実用女学校は藩校「養正館」の跡地に建てられ、師の教えは校是となり現在に伝えられ、庭園には椿が植えられている。西条市小松町では、「椿の香りと文化」をまちづくりの中心に据え、観光PRと椿普及、高齢者の生きがいづくりに努めたが、「椿」の栽培は一部の愛好家にとどまり、市内、県内へのPRも不十分であった。このような反省を踏まえ、従来の価値にとどまらず、地域資源の多角化を研究し、新たな価値を付加した地域の特産品を開発してブランド化すること、それを適切に情報発信し、地域の活性化につなげることが必要である。

イ 生活文化・生活産業の振興

西条市には豊かな自然を生かし、はだか麦、ほうれん草、絹かわなす、七草など優れた農産品が数多くある。水産業においては、盛んなのり養殖のほか、ワタリガニ、シャコ、サワラ、エビ等の西条ブランドがある。しかし、全国的に見るとこれらの知名度は低い。地域に根付く魚食文化も失われつつあり、地域が誇る貴重な資源や食文化の価値は若い世代にうまく伝わらず、その継承も行われていない。

これらの生活産業や生活文化の振興のためには、地域産業や行政、地域の高校と連携した学びを基に、地域資源や伝統文化の価値を知り、新たなレシピや加工品を開発して普及することで、地域

への誇りや愛着心を醸成し、使命感をもって全国に西条ブランドを広め、地域の魅力化・活性化に仲間と共に寄与する人材を育てなければならない。

ウ 地域コミュニティの活性化

西条市において、高齢化率は平成27年度で30%を超え、高齢者のいる世帯は一般世帯の48.2%、そのうち、高齢者一人暮らし世帯及び高齢者夫婦のみの世帯が69.1%を占めている。地域における人間関係の希薄化による相互扶助機能の低下は、西条市においても懸念されており、互いに支え合う地域コミュニティの構築が求められている。地域に住む高校生として、子育て支援や高齢者の生きがいづくりに参画し、互いに学び合う「まちかど家庭科室～ふらっと～」を企画し、地域の小・中学校他と協働して、コミュニティの活性化を図る。実施してきたこれまでの交流に加え、生徒が企画から準備、運営までを主体で行う過程で、マネジメント力やコミュニケーション力を身に付け、人口減少や核家族化等により薄れつつある地域コミュニティの再構築に貢献できる人材を育成したい。また、生涯を見通した自己の生活について、将来の生活に向かって目標を立て、展望をもって生活することの重要性を認識させ、3年間の学びを経て地域の産業スペシャリストとして従事する自分の姿や、そのライフスタイルを実現するための生活設計力を育んでいきたい。

4 研究組織の概要

(1) コンソーシアムについて

ア コンソーシアムの構成団体

機関名	機関の代表者名	
愛媛大学地域協働センター西条	センター長	羽藤 堅治
日本つばき協会支部 愛媛・小松つばき会	会長	佐伯 隆
株式会社 マルブン	社長	眞鍋 明
(株) DECO	代表	處 淳子
小松小学校	校長	藤原 正三
小松中学校	校長	岡田 光
西条市小松総合支所	所長	玉井 宏治
西条市小松子育て交流センター	センター長	玉置 和博
西条市小松公民館	館長	曾我部米治
愛媛県農林水産部漁政課	課長	橋田 直久
愛媛県教育委員会高校教育課	課長	和田 真志
愛媛県立小松高等学校	校長	森岡 淳二

イ 活動日程・活動内容

令和元年7月30日に第1回コンソーシアム検討会議を行い、本事業の概要を説明し、今年度の事業内容を決定した。令和2年3月6日に第2回コンソーシアム検討会議を行い、本年度の研究内容・研究成果と今後の課題を報告した。

(2) カリキュラム開発等専門家について

元高等学校家庭科教員藤岡英子氏を非常勤講師として雇用した。

(3) 地域協働学習実施支援員について

株式会社DECO代表處淳子氏を非常勤職員として雇用した。

(4) 運営指導委員会について

ア 運営指導委員会の構成員

氏名	所属・職	備考
羽藤 堅治	愛媛大学地域協働センター西条・センター長	学校教育に専門的知識を有する者
藤田 昌子	愛媛大学教育学部・教授（愛媛県家庭科研究会・会長）	学校教育に専門的知識を有する者
眞鍋 明	株式会社マルブン・社長	学識経験者
玉井 宏治	西条市小松総合支所・所長	関係行政機関の職員
曾我部米治	西条市小松公民館・館長	関係行政機関の職員
松永 泰	愛媛県立西条農業高等学校・校長	学校教育に専門的知識を有する者

イ 活動日程・活動内容

令和元年7月30日、第1回運営指導委員会を行い、本事業の内容の説明に基づいて運営指導を受けた。令和2年3月6日、第2回運営指導委員会を行い、本年度の研究内容・研究成果と今後の課題を報告し、運営指導を受けた。

(5) 研究推進委員会

ア 校内推進体制の構築

学校の重点努力目標が「学びをつなぐ 思考力、問題発見・解決能力の育成」であり、その副題を「一伝統を継承し、地域と共に歩む」として、地域協働については、学校全体で取り組むものと意識を明確にした。カリキュラム・マネジメントを推進するためのPDCAサイクルを確立するために、校内においては、管理職、家庭科教員の他に、総合的な探究の時間担当教諭、進路担当教諭、教務担当教諭、生徒担当教諭、総務担当教諭、大学院派遣教諭が連携をとっている。

イ 研究推進委員会の構成員

組 織	教職員及び支援員	役割専門分野
	校長	事業総括責任者
研究推進統括	教頭	運営指導委員会・コンソーシアム運営・記録・広報
経 理 担 当	事務長 専門員 主事	備品・需用費・旅費
研究推進委員長	家庭科主任	企画総括・研究推進
研究推進委員会	再任用教育職員	事業推進アドバイザー・指導助言
	総合的な探究の時間担当教諭、大学院派遣教諭	地域創生推進リーダー
	進路課長、教務課長、生徒課長、総務厚生課長	委員
	地域協働学習実施支援員	地域協働学習実施・外部との連携調整・多世代交

		流実施・広報・運営・指導助言
	カリキュラム開発等専門家	カリキュラム開発・SDG s 学習・地域理解学習・資料提供・指導助言
	家庭科教員	企画研究・記録・広報

5 本年度の実施計画

地域の生活産業・生活文化を知り、課題を考える。事業実施の対象学年は1年生とする。

(1) 「課題研究」「生活産業基礎」[SDG sに関する学習、地域理解学習、課題発見と課題解決学習]

取組内容	・調査・研究・実践の効果的な実施～課題研究ガイダンス～ ・地域の課題の発見と解決プランの立案 ・地域に根差す生活産業が直面する課題
実施時期	令和元年7月～令和2年3月
協力機関等	(株) DECO代表 處 淳子

(2) 外部講師による講義・演習[生活文化(椿文化・魚食文化)、地域特産品]

取組内容	① 椿と小松～歴史を紐解く～ ② 瀬戸内の多様な魚食文化 ③ 魚を使った料理教室 ④ はだか麦の可能性
実施時期	令和元年7月・令和元年9月～令和2年1月
協力機関等	① 小松つばき会 ② 愛媛大学地域協働センター西条 ③ 愛媛県農林水産部漁政課 ④ 西条市経営戦略部政策企画課

(3) 校外研修

取組内容	① 地域の伝統産業視察 ② まちづくり・多世代交流先進地視察
実施時期	令和元年7月・8月・10月
研修場所	① タオル美術館 ICHIRO ② 東京都アンテナショップ他、徳島県上勝町、兵庫県尼崎市

(4) 交流活動

取組内容	① まちかど家庭科室～ふらっと～の開催 ② 椿の庭園・椿ハウスの整備 ③ 他県における地域との協働活動実施校との情報交換
実施時期	令和元年7月・8月・11月
協力機関等	①② 西条市小松公民館、地域の小学校・中学校、小松つばき会 ③他県における地域との協働活動実施校

これらの取組において、生徒がタブレットを活用して、学習成果の共有や蓄積ができるeポートフォリオを作成し、教員がその成果を評価するパフォーマンス評価の在り方を研究する。

- (5) 運営指導委員会 [年2回実施]
- (6) 研究推進委員会 [月1回開催]
- (7) 発表会 [発表会を通して成果を普及]
- (8) 学校ホームページ [学校ホームページに取組を掲載]
- (9) 次年度の準備 [次年度の事業対象学年1、2年生]

6 事業実施体制

課題項目	実施場所	事業担当責任者
「課題研究」「生活産業基礎」	本校	校長 森岡 淳二
外部講師による講義・演習	本校	校長 森岡 淳二
校外研修	西条市、今治市、四国中央市、東京都、兵庫県尼崎市、徳島県上勝町	校長 森岡 淳二
交流活動	西条市内	校長 森岡 淳二
地域との協働によるコンソーシアムの構築	本校、西条市（小松総合支所等）、愛媛大学地域協働センター、小松中学校、小松小学校、愛媛県教育委員会等	校長 森岡 淳二

7 課題項目別実施期間

業務項目	実施期間（契約日 ～ 令和2年3月31日）											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
「課題研究」「生活産業基礎」				○	○	○	○	○	○	○	○	○
外部講師による講義・演習				○		○	○	○	○	○	○	○
校外研修				○	○		○					
交流活動				○	○			○				
地域との協働によるコンソーシアムの構築				○	○	○	○	○	○	○	○	○

Ⅱ 研究内容

Ⅱ-Ⅰ 地域課題の発見・解決方法の研究

1 研究の概要

活動内容	活動日	科目	場所
地域課題に関する学習①	7月5日・10月7日	課題研究	小松高校
地域課題に関する学習②	1月20日	課題研究	小松高校
SDG s についての学習	10月9日	課題研究	小松高校
エシカル甲子園2019	11月	課外活動	小松高校
地域産業見学	6月11日	課外活動	今治市
県外研修①	8月5・6日	課外活動	徳島県
県外研修②	8月4・5日	課外活動	兵庫県
県外研修③	8月5日	課外活動	東京都
県外研修④	8月6日	課外活動	千葉県
伝統産業研修	12月6日	課外活動	四国中央市・新居浜市

2 研究の内容

(1) 地域課題に関する学習①

ア 講師 西条市市民生活部市民協働推進課 井上 直樹 氏
 西条市市民生活部市民協働推進課 越智あかり 氏
 NPO西条まちづくり応援団 竹内 敏博 氏
 株式会社DECO 代表取締役 處 淳子 氏

イ 目的

西条市や小松地域の課題について考え、解決方法について話し合うことで、地域について意識し自分たちにできることについて考える契機とする。

ウ 内容

(ア) 「これからの地域づくり」についての講義＜写真1＞

西条市では、今後急激に少子高齢化が進行し、自治体としての機能を果たせなくなる恐れがあることについて話を聞いた。「地域を維持していくためには、地域づくりを行っていく必要があること」「地域づくりとは、地域の課題を解決すること」を教えていただいた。

(イ) 地域の課題についての話し合い活動＜写真2＞

班に分かれ、日頃感じている西条市や小松地域の課題について意見を出し合いまとめた。それぞれの班から出た課題としては「通学路に草が生えている」「高校生が集まれるところがない」「駅が、夜など人が少ないとき怖い」など様々な意見が出た。付箋に自分の意見を書き、全ての生徒が意見を出す機会を設けることができたが、班によって、内容が深まる班とそうでない班があった。



＜写真1＞講義



＜写真2＞話し合いの様子

(ウ) 地域の課題の解決方法についての話し合い活動<写真3>

7月に実施したワークショップで出された課題を基に、その課題が「誰にとってどう困るのか」「どうすれば改善できるか」を班ごとに考え、発表した。



<写真3>発表の様子

今後は、これらの案を実現し、課題を解決できるよう具体的な方策を考えていきたい。

(2) 地域課題に関する学習②

ア 講師 西条市役所経営戦略部 シティプロモーション推進課

広報係・シティプロモーション推進係 広報専門員 日野 藍 氏

イ 目的

SNSを活用した地域の魅力の発信方法について、正しい知識を身に付けるため。

ウ 内容<写真1>

Instagramを中心にしたSNSによる発信方法について講義を受けた。SNSの危険性や周りを不快にさせない発信方法について、個人情報流出や炎上、ネガティブな発言を例に挙げた説明を受けた。Instagramのキーワードは共感であり、「その人のフィルターを通した世界観が周囲の人に共感を呼ぶ」投稿が、支持される傾向があることを教えていただいた。

実際に各自のスマートフォンを使い人気のインスタグラマーを検索し、どのようなところが人を引き付けるのかについて教えていただいたり、構図を意識した写真撮影の練習を行ったりした。地域の魅力を効果的に発信していけるよう、写真撮影のこつや伝えたいポイントの絞り方等を意識するきっかけとなった。



<写真1>活動の様子

エ 生徒の感想

- ・ SNSはいろいろな人と繋がることができ、自分から発信できるので、どこかで活用して地域について広めたいです。
- ・ Instagramがどういうツールなのか、きれいな写真の撮り方のコツがよくわかりました。炎上に気を付けて楽しんで使っていきたいです。
- ・ 今まで写真の加工をしたことがなかったけど、とても分かりやすかったので、次から使ってみたいです。
- ・ SNSは今ではほとんどの人が使っているツールなので、地域の写真をアップして、地域について広めようとするのは良いなと思いました。自分が発信することで、地域の良さも発見できると思うので、やってみたいです。
- ・ 写真の撮り方にも色々なコツがあることが分かった。グリッド線をつけて撮ったり、自然光を入れて撮ったりするなど、次に写真を撮るときにやってみようと思いました。

(3) SDG s についての学習（「2030SDG s」カードゲームを通して）

ア 講師 新居浜K I T E 大西 政年 氏 神野 恭他 氏 西原 あさひ氏

イ 目的

「2030SDG s」カードゲームを通して、「なぜSDG s が私たちの世界に必要なのか」、そし

て「それがあることによってどんな変化や可能性があるのか」を体験的に理解する（イマココラボによる「2030SDGs」のカードゲームより）。

ウ 内容

SDGsのカードゲームを通して、持続可能な社会についての学習を行った。＜写真1＞

2030年の社会をどのように構築するかということを仮想の目標として、「経済」「環境」「社会」のバランスのとれた状態にするために班別に与えられた課題を解決していくというゲームに取り組んだ。カードの種類が多く、ルールも少し難しかったが、生徒たちはお互いに協力して、話し合いを進めたり、他の班と交渉しながらカードを交換したりして、課題達成に向けてゲームを楽しむことができた。ゲームの後には、SDGsについての講義を聞き、ポテトチップスを例に、私たちの消費行動が生産地にどのような影響を与えるかなど具体的に学ぶことができた。



＜写真1＞カードゲームの様子

エ 生徒の様子と授業担当者の所感

ゲームのルールを理解することや、それを理解した上で自分たちの目的も踏まえて交渉していくことでコミュニケーション能力の向上につながった。なかには全体を見て発言したり、仲介することができる生徒もいた。また、協議することが不得意な生徒にとっても、集団の中での関わり方や役割の果たし方を体験することができた。ゲームの結果は、「経済」状態は良いが、「環境」や「社会」状況が悪い世界ができてしまった。自分の国のことだけを考えると地球規模でバランスがとれなくなるということを理解することができた。

(4) エシカル甲子園2019

ア 目的

地域の生活文化や地域課題を考える学習を通して、エシカル消費についてもつながりが深いと感じ、始めたばかりの取組ではあるが、エシカル甲子園2019に応募した。

イ 応募資料＜表1＞

＜表1＞エシカル甲子園2019 予選応募資料

発表タイトル	地産地消による生活文化の伝承と地域の活性化
活動の目的	本校ライフデザイン科は、本年度から3か年にわたって文部科学省の「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（プロフェッショナル型）」の指定を受け、高齢化・過疎化が進む西条市において、SDGsの観点から地域の課題を発見しつつ、『生活文化の伝承と多世代交流、共生のまちづくりに貢献する人材の育成』を目指す事業を進めている。その中の大きな柱が、椿文化・魚食文化・はだか麦などの、地域の生活文化について学習し、伝統を継承し、特産品を使用した新しいレシピ・製品の開発などに取り組む活動である。 今回は、地域の様々な年代の人々と交流しつつ、エシカル消費の観点を持

	ちながら生活文化を受け継ぎ発展させることによって、地域の活性化という課題解決を図ることを目的に、このテーマを設けた。
具体的な活動内容	1 活動の場 活動は、『課題研究』『生活産業基礎』の授業、課外活動などで実施する。 2 SDGs の観点 SDGsの観点から地域の問題点を考える。1年生の『課題研究』の授業において、西条市生活文化部、まちづくり応援団などから講師を招き、西条市の地域課題について考え、解決への方策を考える授業を実施している。今後は、椿文化・魚食文化・はだか麦といった地域の伝統・特産品を大切にし、生活文化を伝承することで、地域の活性化を図る活動を進めていく。 3 先進地視察 (1) 東京都アンテナショップ 東京都新橋のアンテナショップ「せとうち旬彩館」等で、愛媛産品の販売状況を観察し、地域の産品に付加価値を付ける販売方法の創意工夫を調査した。 (2) 徳島県上勝町 上勝町における「葉っぱビジネス」や「ごみゼロの活動」など、SDGsの観点に基づいた過疎地域における地域おこしの取組について調査した。 4 地域の伝統や特産品に基づく生活文化の伝承 (1) 椿文化の伝承 西条市小松町には、江戸時代以来、椿を大切にする歴史・文化があり、市町村合併前には、椿の花を町花としていた。この文化を、小松つばき会などの地元の年配の方々から学び、若い世代に引き継いでいく活動を計画している。6月には、小松つばき会の講師の方による椿文化に関する講義、7月には、小松中央公園にある「椿千年の森」の清掃活動を実施した。8月には、西条市のイベントにおけるかき氷コンテストで、椿の花を表現したかき氷を作り、総合優勝に輝いた。 (2) 魚食文化 西条市には、ハモ・サワラ・シャコ・ワタリガニなど豊富な水産資源があり、伝統的郷土料理もある。この文化を、漁協の女性部の方などから学び、新しいレシピ開発や商品開発などを目指す。8月には、西条市の魚料理コンテスト（今年の課題は特産品のハモ）で最優秀、ときめきレシピコンテスト（今年の課題は、特産品の絹かわなす）で最優秀を獲得した。

	(3) はだか麦 愛媛県は、はだか麦の生産量全国一であるが、西条市は、その中でも最も生産量が多い。また、はだか麦は、小麦と違いグルテンフリーで食物アレルギーの原因になりにくいなどの特徴がある。この特産品を使用した、新しいレシピ開発や商品開発などを目指す。7月には、愛媛県東予地方局の農業育成室の講師の方によるはだか麦に関する講義を実施した。
活動のまとめと今後の展望	1 ライフデザイン科で従来実施してきた活動に加え、多くの地域人材の協力を得て、地域協働の形で活動が開始されたところである。先進地視察や、椿文化・魚食文化・はだか麦などの、地域の生活文化を学んでいく中で、どのような活動が、地産地消のエシカル消費につながるかを考えつつ、地域と共に地域活性化を目指す方法を考えていく必要がある。 2 現時点で得られた成果は、いずれも例年参加していたコンテスト等での成果であり、新しいものではない。また、「課題研究」の授業などにおいても、地域人材から知識を伝授してもらう活動が中心で、自分たちで活動の方向性を考えるに至っていない。今後は、自分たちで地域活性化に向けての活動方針を考え、活動計画を立てていくことが大切だと考える。

(5) 地域産業見学

ア 場所

- ・タオル美術館 I C H I H I R O
- ・日本食研株式会社
- ・ユニバーサルホーム今治展示場

イ 目的

衣・食・住の生活関連産業について学び、将来のスペシャリストを目指す。

ウ 生徒の様子と授業担当者の所感

タオル美術館では、タオル製造過程の見学や様々なタオルを使った作品の鑑賞を行った<写真1>。日本食研では食文化について学び食品製造の工場を見学した。ユニバーサルホーム今治展示場では、住宅展示場を見学し、住生活関連の職業について話を聞くとともに、展示場の設計に関わった建築士が女性ということもあり、家事動線が考えられた間取りになっていることについて説明していただいた<写真2>。衣・食・住生活関連産業について、日頃見聞きすることのできないことを体験的に学ぶことができ、大変充実した研修となった。働く方の生の声を聞くことができ、働くことについてや、どんな仕事が自分に合っているかについても考えるきっかけとなった。



<写真1>タオル美術館



<写真2>ユニバーサルホーム

(6) 県外研修

ア 県外研修①（徳島県上勝町）

- (7) 期日 令和元年8月5日（月）・6日（火）
- (イ) 場所 徳島県上勝町 パンゲアフィールド
- (ウ) 講師 合同会社パンゲア、株式会社いろどり
- (エ) 目的

「葉っぱビジネス」や「ごみゼロ作戦」など地域活性化に取り組んでいる上勝町の視察を通して、地域の生活産業や生活文化を知り、その課題を解決するための方策を学ぶ。

(カ) 実施内容

① ゼロ・ウェイスト取組見学と講義＜写真1＞

ゼロ・ウェイストとは「無駄、浪費、ゴミをなくす」という意味である。物の無駄遣いをせず、リサイクル、リユースを進め、また生産段階から処理に困らない製品をつくることで焼却・埋め立て処理される有害なゴミをなくしていこうという理念。

【ZERO】＝ゼロ 【WASTE】＝無駄、浪費、ごみ

上勝町ではできる限りのリサイクル・リユースを進めることで焼却・埋め立てごみの削減に取り組んでいる。平成28年度においてリサイクル率は全国平均が約20%に対して81%を実現した。

② 彩（いろどり）事業講義＜写真2＞

上勝町の面積のうちの約90%が人工林（スギなど）である。昭和61年、彩事業がスタートした。町の150軒の農家が彩ビジネスに携わっている。今後は、彩を活用した後継者育成事業展開を考えている。

③ 地域おこし協力隊事業講義

地域おこし協力隊の制度を使った移住者促進の秘訣と実践についての内容であった。県外からの移住者がゆこうの皮を使ったビールを開発するなど上勝ブランドを広め、地域活性化に尽力している。販売している物産市の見学も行った＜写真3＞。

④ SDG s 取組講義＜写真4＞

SDG s（エスディージーズ）とは、「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」の略称であり、2015年9月に国連で開かれたサミットの中で世界のリーダーによって決められた国際社会共通の目標である。上勝町は「持続可能なまちづくり」を目指して取組を進め、「SDG s 未来都市」に選定された。上勝町が新たに世界の目標に取り組むという考えでなく、これまでのような持続可能なまちづくりが世界の目標達成に寄与していくものとなる。

(カ) 生徒の感想

- ・私は、ごみの分別は燃えるごみと燃えないゴミ、缶などの分別しかしていなかったけど、上勝町は、45分別もあると聞いて、そんなにもあるのだなと思いました。2003年に日本で初めて「ごみゼロ宣言」をしたのが、上勝町ということでびっくりしました。また、生ごみは、各家の生



＜写真1＞ゴミステーション見学



＜写真2＞講義の様子



＜写真3＞物産市見学

ごみ処理機で分別しているということを知って、環境に配慮した取組だと思いました。

- ・彩ビジネスのしくみを知り、高齢者の方々がパソコンを活用していることに驚きました。都会ではない環境の違いを生かして、彩ビジネスを発見し、年商も2億円までいってすごいと思いました。この講義で学んだことを椿やはだか麦、魚食に生かしていきたいと思いました。
- ・持続可能な開発目標のことをSDG s ということを知りました。国連が定めた17項目を上勝町では、森エリア・町エリア・彩エリアなどに分類し、取り組んでいることを知りました。SDG s は自由に考えて、つながりを持ち、未来志向で若者が働きかけ、全員がコミットすることが大切なんだと思いました。

(キ) 成果と課題

過疎化、高齢化が進む上勝町ではあるが、地域住民が経済面や生活面で生き生きと暮らしている様子が感じられ、それが、地域課題の解決につながり、地域活性化を進めていることを学ぶことができた。このように地域住民が喜ぶ取組が、本事業でも実践できれば良いと考えた。



<写真4>パンゲアの方々と

イ 県外研修②（兵庫県尼崎市）

(ア) 期日 令和元年8月4日（日）～5日（月）

(イ) 場所 尼崎市立琴ノ浦高等学校

(ウ) 目的

「みんなのサマーセミナー」の視察を通して、多世代協働についての方策を学ぶ。

(エ) イベントの概要<写真5>

「みんなのサマーセミナー」は、愛知県で20年以上続いている地域と学校が協力して企画・運営を行う愛知サマーセミナー」をモデルに尼崎市で開催しているイベントである。今年は、琴ノ浦高等学校や尼崎城、中央図書館を会場に8月3日・4日に開催された。



<写真5>サマーセミナー

(オ) 内容

① みんなのサマーセミナーへの参加（8月4日）<写真6>

視察当日はイベント2日目午後で、3時間の授業を班ごとに受講した。授業開始時には、チャイムが鳴り、放送でスポンサーの企業名を読み上げるなど、学校らしさとイベントとしての遊び心を感じる演出も多く見ることができた。時間割を見ると、「スナック菓子で災害時のゴハンづくり！」や「楽しい文房具の世界を体験しよう！」など多様な内容であるとともに、講師も小学生から高齢者まで様々な人が担当していた。



<写真6>サマーセミナーの様子

② サマーセミナー実行委員の方々との交流会（８月５日）＜写真７＞

尼崎市では、毎年「サマーセミナー」を開催しており、地域の子供から大人までが先生となって、授業を行う。「尼崎市に住んでいる人に、いろいろな仕事や活動をしている人、魅力的な人を紹介し、様々な人が活躍できる場を作りたい。」という目的で開催している。実行委員の方から、「実行委員をして尼崎のことがもっと好きになった」「大変なことも含めてとても楽しい」「尼崎のイメージを変えたくて活動を始めた」など、人と繋がることの大切さや大変なことを含めてやりがいや充実感があること、自分たちで、自分たちが住む町を良くしようとしていることなど様々な話を聞くことができた。



＜写真７＞実行委員の皆さんとの交流

(カ) 生徒の感想

- ・じゃがりこを使った災害時のゴハンづくりに参加しました。じゃがりこのマッシュポテトもパッククッキングの卵焼きも普通に食べているものと変わりなく驚きました。災害時にもおいしいごはんが食べられるなと思いました。
- ・英語育児法の講義を受けました。リズムゲームや野菜スタンプで遊ぶなど、全力で楽しみました。英語の良さについて知ることができました。苦手意識を持たずに楽しく学ぶことが大切だと思いました。
- ・食物アレルギーの授業ではアレルギーの種類や注意しないといけないことがたくさんありました。授業を受けた人の中にもたくさんアレルギーがある方もいました。今まで知らなかったことや気を付けないといけないことをゲームを通して体験できました。
- ・実行委員の方の話のなかで、「つらいことも楽しんで行く」や、「年齢層がバラバラでも、チームでやりとげることが楽しい」という話が印象に残りました。
- ・実行委員の方が、サマーセミナーのやりがいは、意外な出会いがあることで年齢を超えて友達ができることだと言っていました。地域との繋がりというのは大切なことなんだなと思いました。

(キ) 成果と課題

生徒たちは、小学生が講師をする授業で分かりやすくきちんと話す様子や、授業の最後に参加者が感想を言っていくとき、小学生も自分の考えを堂々と話したりする姿を見て驚いていた。一緒に授業を受けたり、ゲームをしたりする中で、普段出会うことのない人と触れ合うことができたことは刺激となったのではないだろうか。実行委員の方々からのお話で、自分達の地域へのセルフイメージを良くしたいという熱い思いや、楽しんで活動している様子、仲の良さが伝わってきた。地域おこしや多世代協働を大変なことと捉えるのではなく、良さを実感し「自分もやってみたい。楽しそうだな。」と感ずることができたようだ。その後のボランティア等への参加も良好である。今後、自分たちでイベントを開催する場合の参考にしたい。

ウ 県外研修③（東京都）

(ア) 期日 令和元年8月5日（月）

(イ) 場所 東京都内アンテナショップ

(ウ) 目的

アンテナショップの視察を通して、愛媛県をはじめ、地域の特産品にはどのようなものがあるか、また、全国の方にどのように周知し、アピールしているかを学び、今後自分たちの住んでいる地域活性化に向けての方策を考えるきっかけとする。

(エ) 実施内容

① セとうち旬彩館<写真8>

愛媛県と香川県のアンテナショップで、愛媛県では、みかんを中心とした柑橘系の加工品の他、はだか麦のみそや鯛ラーメン、地域の特産品を使ったレトルトカレーなど様々な品物が販売されていた。西条市のものとしては、絹かわなすの加工品や名水で作ったくずもち等があった。香川県は、うどんを中心とした加工品の他、しょうゆ豆、小豆島のオリーブの加工品等が販売されていた。各地のゆるきゃらを商品のパッケージに使用しているものもあった。



<写真8>せとうち旬菜館

② とっとり・おかやま新橋館<写真9>

鳥取県と岡山県のアンテナショップで、鳥取県は、砂丘にちなんだネーミングの加工品があった。岡山県は、生のマスカットや桃の他、くだものの加工品などが販売されていた。パッケージも工夫されていた。また、食品だけではなく、デニムや帽子なども販売されていた。



<写真9>とっとり・おかやま新橋館

③ 東京交通会館<写真10>

数多くの都道府県のアンテナショップが入っていた。そのうち、北海道、大阪府、徳島県を視察した。北海道は、乳製品を中心に様々な味にアレンジしたものがあつた。期間限定の商品もあり、興味を持った。大阪府は、たこ焼き味や串カツ味のようなアピールするポイントを、パッケージに分かりやすく表示しているものがあつた。阪神タイガースやよしもとに関連した商品も多かった。徳島県は、わかめ、すだちなどを中心に販売されていた。また、今治市のタオル美術館の店舗もあつた。



④ シン・エヒメ（愛媛のアンテナショップ）<写真11>

丸の内にある近代的なビルの中にあり、高級感が漂っていた。愛媛県内各地の様々な商品が販売されていた。皮をむいたみかんが透明のおしゃれなビンに入れられていたり、みかんを丸ごと大福にしたり、普段愛媛ではあまり見かけない商品もたくさん販売されていた。3種類の味が楽しめるみかんジュースの蛇口もあつた。西条市のものとしては、おかき（米菓子）やオートミール等の商品があつた。



<写真10>東京交通会館アンテナショップ

(オ) 生徒の感想

- ・アンテナショップには、レストランやカフェを併設していたり、試食があったりと、実際に新鮮な地域の物を食べられるようになっていて、その場で良さがわかってもらえるようになっているんだなと思った。
- ・せとうち旬彩館にはイベントコーナーがあり、視察の際には、香川県のまんのう町がひまわりオイルを紹介していた。広大なひまわり畑の写真が載ったパンフレットを見たり、お話を聞いていると、行ってみたいなと思ったり、買ってみようかなと思ったりした。人がたんさん集まる東京のような場所で、直接地域のことをアピールできる方法があるんだということがわかった。
- ・商品のネーミングやパッケージに工夫がされていて、思わず手にとってしまうような目を引くものが多かった。離れた地域の人にアピールするにはこのような工夫も必要なんだなと感じた。
- ・愛媛県の身近にあるものが、こんなにも遠い場所でも販売されていて驚いた。自分の住んでいる地域の物なのに、知らない物が多くて、もっと自分の住んでいる地域のことを知りたいと思った。
- ・メモを取りながら店内を歩いていると、アンテナショップの店員さんやお客さんに「がんばってね。」と声を掛けてもらった。私たち高校生は、大人たちから期待されているんだなと思った。
- ・地域の魅力を伝えるには、まず自分たちが知ることから始め、それから人に伝えられるようにならないといけないなと思った。
- ・もし小松町や西条市のアンテナショップを作るとしたら…と考えたりして、地域活性化を考えるための良い経験になった。子どもから高齢者の方々まで幅広い世代に必要とされるような場が提供できたらいいなと思った。



＜写真11＞シン・エヒメ

(カ) 成果と課題

おそらく初めて訪れたであろうアンテナショップで、各地域の様々な特産品が紹介され、販売されている状況を知ることができた。自分たちの住んでいる愛媛県でも知らない特産品が多くあることや、遠く離れた東京という場所で様々な商品が販売され、購入されていく様子を見て、自分たちも地域活性化に向けて何かできないかと考えるきっかけになったのではないかなと思われる。

今後は、今回生徒たちが感じたといった感覚を校内で共有し、具体的な方策について考えていきたい。

エ 県外研修④（千葉県立館山総合高等学校）

(ア) 期日 令和元年8月6日（火）

(イ) 場所 千葉県立館山総合高等学校

(ウ) 目的

昨年度よりスーパー・プロフェッショナル・ハイスクール事業に取り組んでいる先進校の千葉県立館山総合高等学校を訪問し、地域とのつながりや活動の様子、授業の取組等について教えていただき、今後の事業推進に向けての参考にする。

(エ) 実施内容

① 中学生1日体験入学参観

家政科の紹介を、各学年の生徒が丁寧に説明していた。食物調理技術検定の4級や、高齢者向けの体操の実演もあり、一緒に体操を行った。各種コンテストでは、全国大会で優秀な賞を数多く受賞していた。その取組の様子が取り上げられたテレビ番組も見せていただいた。

② 生徒同士での懇談＜写真12＞

体験入学後、館山高校の生徒さん2名とお話ができる時間を提供していただいた。昨年度からの取組の様子や進め方、苦労した点、やりがい等を教えていただいた。本校の生徒からの質問にも丁寧に答えてもらった。



＜写真12＞千葉県立館山総合高等学校にて

(オ) 生徒の感想

- ・中学生1日体験入学を参観し、館山高校は、とても良い雰囲気楽しく学べそうな学校だなと思った。学習内容には、私たちの学校でも取り組んでいる技術検定の紹介があり、県外でも同じように技術検定を受けているんだと感じた。
- ・先輩方とお話をさせていただき、たくさんを知ることができ、とても勉強になった。休日に地域の人たちと協力してイベントを開催していて、「休日がなくなるのはしんどいけど、やりがいがあるって楽しい。」と聞き、すごいなと思った。
- ・「自分のやりたいと思った事に協力してくれる方がいて、それが形になると、自分にもできることがあるんだと感じる。」という言葉がとても心に残っている。
- ・生徒中心で様々な活動を行い、地域の活性化を目指していると知り、私たちもこれから様々な活動に取り組んでいくにあたり、まずは地域の事をよく知りたいと思った。

(カ) 成果と課題

自分たちと同じ高校生の生き生きとした活動の様子を見て、生徒たちは刺激を受けたのではないと思う。地域活性化に向けての活動について、同じ高校生の先輩から直接お話を聞ける良い機会となり、自分たちにもできることを考えるきっかけになったと思う。

(7) 伝統産業研修 （四国中央市・新居浜市）

ア 場所 愛媛県産業技術研究所紙産業技術センター

広瀬歴史記念館・広瀬邸

イ 目的

地域の伝統産業について学び、文化の伝承や地域振興について考える。

ウ 生徒の様子と授業担当者の所感

紙産業技術センターでは、四国中央市の伝統産業である紙について展示を通じて学び、水引を使ったストラップ作りを体験した<写真1>。展示では、マイクロスコープを使って様々な紙の構造を見たり、実際の紙を触ったりした。また、不織布で作ったドレスや和紙を使った作品を鑑賞し、紙という概念に捉われない発想の大切さに気付いた。

水引ストラップ作りでは、使用する水引をたくさんの種類から選び制作した。セロハン加工や様々な水引に心を奪われ、選ぶのにとても時間が掛かっていた。体験をきっかけに水引での小物づくりに興味がわき、実際に様々な物を作りたいとの感想も多くあった。

広瀬歴史記念館では、幕末に住友の経営難による別子銅山の売却を阻止した広瀬幸平の様々なエピソードについてお話があった。旧広瀬邸では、和風建築に関わらずその当時日本にはない避雷針を取り入れたり、洋式便器や板ガラスを使用したりするなど、様々なこだわりや新しいものを取り入れる姿勢を見ることができた<写真2>。

今回の研修を通して、伝統的な産業や文化の良さを感じるとともに、それを残していくことの大切さについて学ぶことができた。



<写真1>紙産業技術センター



<写真2>広瀬歴史記念館

Ⅱ - Ⅱ 伝統文化・地域特産品の研究

1 研究の概要

	活動内容	活動日	科目	場所
魚食文化	魚食文化に関する講義	9月24日	課題研究	小松高校
	魚料理講習会	12月19日	家庭総合	小松高校
	魚を使った調理実習	1月28日	家庭総合	小松高校
	魚を使った料理コンテスト	8月3日	課題研究	西条市
椿文化	椿文化に関する講義	6月10日	課題研究	小松高校
	椿カレンダー制作	7月～11月	課外活動	小松高校他
	うちぬき氷コンテスト	5月～8月	課外活動	小松高校他
	椿クッキー販売	11月2・8日	課外活動	小松高校他
	椿のリース作り	12月19日	課外活動	小松高校
	椿のジャム作り	2月5日	課題研究	小松高校
	椿の折り紙	9月	課題研究	小松高校
	椿の染色実験	6月	課題研究	小松高校
はだか麦	はだか麦に関する講義	7月12日	生活産業基礎	小松高校
	ピッツァ作り研修	8月8日	課外活動	飲食店
	小麦粉を使った料理コンテスト	6月～	課外活動	小松高校

2 研究の内容

(1) 魚食文化の研究

ア 魚食文化に関する講義＜写真1＞

(ア) 講師 西条市河原津漁協 漁業女性部 川又 由美恵 氏

(イ) 目的

西条市で水揚げされる魚について知り、それを使った料理や地域の魚食文化について考える。

(ウ) 内容

講義の最初に、川又氏から「魚の絵を自由に描いてみよう。」との呼び掛けがあった。過去には、切り身の絵を描いた子どもがいたことをお話していただき、子どもの魚離れが進んでいることに生徒も驚いていた。西条市で水揚げされるハモやシタビラメ、コウイカ、コチなどの特徴について説明を受けた。自分たちが知らない魚が地域で水揚げされていることや、魚の種類によって合う調理法があることを学ぶ機会となった。

(エ) 生徒の感想

- ・魚の絵を描いてと言われて、あらためて描こうとすると難しかったです。切り身を描いた人がいたと聞いて、びっくりしました。



＜写真1＞講義の様子

- ・ハモが西条でよくとれることを初めて知りました。今日教えてもらった魚は、食べたことがない魚が多かったので、これから食べてみたいです。魚の調理は今までしたことがないので、やってみたいと思いました。

イ 魚料理講習会＜写真2＞

- (ア) 講師 西条市河原津漁協 川又 由美恵 氏
西条市壬生川漁協 稲井 藤美 氏

(イ) 目的

魚の調理について、基本的な知識と技術を身に付ける。

(ロ) 内容

シタビラメとコウイカのさばき方を教えていただき、一人1尾ずつ調理を行った。今回は、シタビラメの煮付け、コウイカの煮物と刺身、コチの汁物を作った。最初は恐る恐る魚に触っていた生徒も段々と慣れ「鱗を取るのが楽しい。」「コウイカが白くて綺麗だった。」など楽しみながら調理している様子だった。生まれて初めて魚やコウイカをさばいた生徒も多く、大変貴重な経験となった。

今回の経験を生かして、更に調理技術を高め、魚に合った料理やレシピを考案していきたい。

(ハ) 生徒の感想

- ・シタビラメもコウイカも、最初は気持ち悪くて怖かったけど、最後は楽しかったです。甘辛く煮付けてもおいしそうだと思います。
- ・はじめて魚をさばきました。内臓やうろこを丁寧に取除いて、料理をしました。すごくいい経験になりました。

ウ 魚を使った料理の考案と調理＜写真3＞

(ア) 目的

魚料理講習会での学びを生かして魚に合う調理法を考案するとともに、技術の向上を目指す。

(イ) 内容

各班で、シタビラメに合う調理法やレシピを本やインターネットで調査し、アレンジを加えたレシピを考案して発表を行った。その中で生徒から好評だった「シタビラメの唐揚げ甘酢あんかけ」「シタビラメのグージョネット」を調理実習で実施した。魚料理講習会で教えていただいたことを生かして、鱗が飛ばないように工夫するなど生徒の魚調理技術の向上が見られた。魚の特徴を踏まえて、自分たちで考案した料理を作ることによって生徒の自信につながった。

(ロ) 生徒の感想

- ・前は煮付けだったので、今回は唐揚げにしました。かりっとしておいしかったです。竜田揚げにしてもおいしそうだなと思いました。
- ・グージョネットという料理を初めて知りました。シタビラメのフライにタルタルソースがあっいておいしかったです。若者が好きそうな魚料理を作ることができました。



＜写真2＞実習の様子



＜写真3＞実習の様子

エ 魚を使った料理コンテスト

(ア) 目的

西条市の魚食文化の知識を高めるとともに、若者にも食べやすいレシピの考案を通して、魚食文化普及について考え行動する。

(イ) 内容

西条市で水揚げされるハモを使った主菜と、愛媛県産の食材を使用した副菜のレシピを考案した。若者にも食べやすいように、ハモのすり身を西条市名産の絹かわなすで挟んでフライにし、麦味噌を入れたトマトソースを添えた主菜にした。副菜には、愛媛県産の野菜とハモの唐揚げにキウイソースをかけたマリネを考案した。調理法の違いによってハモの食感の違いが楽しめるように工夫し、西条市や愛媛県のおいしさがつまったレシピを考案してコンテストに出品した。

次のように研究を進めた。

① 実態調査、レシピ考案

7月上旬 クラスに魚文化やハモについてのアンケート調査

ハモについて調査、レシピ考案

出品作品とメンバーの決定



<写真4>練習の様子

② 試作、レシピ改良<写真4>

7月下旬 試作、トマトソースの改良

7月31日(水) 最終練習、盛り付けの工夫

③ コンテストに挑戦<写真5>

8月3日(土) 西条市内4高校が参加した。会場で調理と試食をして、その後審査と、魚食文化の普及に向けてのプレゼンテーション審査が行われた。



<写真5>コンテストの様子

④ 審査結果<写真6>

見事、優勝することができた。ハモをふんだんに使用し、広い世代の人が食べやすいレシピだったことを評価していただいた。引き続き、魚食文化普及に向けて行動していきたい。

⑤ 9月21日(土) 優勝作品に係るレセプション<写真7>

優勝作品をアレンジしたメニューが西条市内の飲食店で提供されることが決定し、お店で試食をさせていただいた。生徒は、プロの手が加わると更においしく変化していたことに驚いていた。



<写真6> 表彰後の記念撮影

(ウ) 成果と課題

コンテストを通して、得た知識をアウトプットすることの大切さや新しいレシピを考案する難しさを学ぶことができたと思う。誰に食べてほしいのか、どうしてこの食材なのかレシピに込めた思いが重要であると感じた。生徒も「自分の考えたものが実際に出来上がって、誰かに食べてもらえる嬉しい。」と意欲が高まっていた。今後は、この経験を生かして、県や全国規模のコンテストに挑戦していきたい。



<写真7>レセプションの様子

(2) 椿文化の研究

ア 椿文化についての講義 「椿薫る文教の町の小松高等学校」

(ア) 講師 小松つばき会 黒川 雅子 氏

(イ) 目的

小松高校出身で、小松つばき会で活動されている講師から、小松高校の歴史やつばき文化について教えていただくことで、歴史をつないでいくことの大切さを実感させる。

(ウ) 講義内容＜写真1＞

- ・小松高校の歴史について
- ・篤山椿について
- ・西条市小松町と椿の関係性について

(エ) 生徒の感想

- ・小松高校の歴史や、小松町について知らないことが多かった。
- ・篤山椿について初めて知った。どんな花が咲くか楽しみです。



＜写真1＞講義の様子

イ 椿カレンダー制作

(ア) 目的

作成に当たって小松つばき会との交流を行い、椿についての知識を深めるとともに、地域の方が椿文化を次世代につないでいくための取組について理解させる。また、カレンダーの作成を通して、見る人に良さを伝えるための技術を高める。

(イ) 活動内容

① 7月4日（木） 西条市小松総合支所との打合せ＜写真1＞

デザインから本校生徒が作成する。

西条市小松町の椿や西条市のPRになるものとする。

写真データは地域の方が撮影したものを使用する。



＜写真1＞打合せ

② 制作＜写真2＞

9月中旬～ パソコンを使用してデザインをする。

10月末 小松つばき会・西条市小松総合支所との打合せ

デザイン案を確認していただき、アドバイスをいただく。

花がきれいに見える写真選び、配置、様々な品種の使用についてアドバイスを受け、再編集する。



＜写真2＞カレンダーの制作

③ 投票＜写真3＞

小松公民館での西条市小松文化祭で地域の方に投票していただく。



＜写真3＞小松文化祭での投票の様子

【投票結果】

Cの作品に決定＜写真4＞



＜写真4＞完成したカレンダー

(ウ) 生徒の感想

- ・ 椿の花も知らなかったところから、色々な品種やその名前を覚えることができた。
- ・ パソコンもやったことがなかったからはじめはすごく大変だったけど、形になっていくとだんだん楽しくなった。地域の人に色々な椿があることを知ってほしい。
- ・ 自分たちが作ったカレンダーが地域の方に真剣に選んでもらえるのが嬉しかった。

ウ うちぬき氷コンテスト

(ア) コンテスト名 えひめさんさん物語「水の物語」うちぬき氷プロジェクト

(イ) 目的

西条市のうちぬき水を使用した氷でオリジナルかき氷を作るコンテストに参加するに当たり椿を「かき氷」で表現し、小松の「椿薫る歴史と文化」を広める。

(ウ) 活動内容

① ワークショップ

5月27日(月) コンテストの概要説明、コラボ店舗の発表

6月中旬～ オリジナルかき氷のアイデア募集

6月13日(木) 商品企画と商品開発の手順とポイントの講義

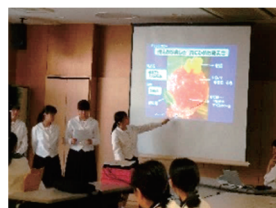
地方における開発の必須要素を学習

オリジナルかき氷の案をプレゼン発表<写真1>

6月7日(金) コラボ店舗「くらしとごはんリクル」と打合せ

<写真2>

オリジナルかき氷、キャッチコピー、価格の決定



<写真1>プレゼン発表



<写真2>打合せ

② シロップ作り

7月23日(火)～8月9日(金) シロップ作り<写真3>

- ・ ももの皮むき、カット、煮詰め
- ・ すもものカット、煮詰め
- ・ みかんのカット



<写真3>シロップ作り

③ 椿の葉の収穫

8月9日(金) 校内の椿の葉を収穫、洗浄し、冷蔵保存した。

④ コンテストへの挑戦<写真4>

本校を含む、西条市内5高校(丹原・東予・西条・西条農業)が参加した。オリジナルかき氷の商品紹介やその商品のコンセプトをステージ発表した。その後、各テントでかき氷の販売をした。



<写真4>コンテスト本番

【審査結果】＜写真5＞

審査委員による審査結果：ストーリー賞

一般投票を含めた最終審査：グランプリ賞（総合優勝）



＜写真5＞記念撮影

⑤ 商品名「まるごとTSUBAKI」の紹介＜写真6＞

椿の花の色は、すももともものシロップ。氷の中には、椿の種のようなタピオカ。アイスクリームは、冬から春にかけて咲く椿をイメージし、「雪解け」を表現した。

・商品名：「まるごとTSUBAKI」

・価格：600円

・キャッチコピー：「控えめな美しさ 内にひめた優美さ」

・椿の文化を、このプロジェクトで多くの人に知ってもらいたい！そんな想いが込められているかき氷である。



＜写真6＞販売用パネル

(エ) 生徒の感想

- ・5月から活動し始め、リクルさんと協力しながら3か月かけて良い作品ができた。すももを使うことにより、椿のような紅い色が表現できた時は感動した。味は甘みと少し酸味があった。タピオカとバニラアイスのアクセントもあり、とてもおいしかった。審査の結果、グランプリをとることができ、とても嬉しかった。最高の夏になった。

エ 椿クッキー

(ア) 目的

椿について学習する中で、「椿油」が食用にされていることを知った。その椿油を活用する方法として、クッキーに使用して販売した。本校では、文化祭や地域の公民館で、小松高校イメージキャラクターを模倣した「ようせいくんクッキー」を毎年販売している。それに合わせて、椿油入りの椿のクッキーを作り、小松の椿文化を広めたいと考えた。

(イ) 活動内容

① クッキー作り＜写真1＞

材料：薄力粉、無塩バター、卵、グラニュー糖、椿油、香料

作り方：バターとグラニュー糖を混ぜ、卵を入れる。

椿油と香料を入れ、薄力粉を混ぜる。



＜写真1＞クッキー作り

② 販売＜写真2＞

椿油入りの「椿クッキー」と「ようせいくんクッキー」を2枚入り1袋100円で販売した＜表1＞。小松町文化祭では、連日にわたり購入してくださる方もおり、好評であった＜写真3＞。



＜写真2＞椿クッキー

<表1>

販売日	行事名	場所	販売個数
11月1日（金）	小松高校文化祭	本校	200袋
11月9日（土）・10日（日）	小松町文化祭	小松公民館	100袋



<写真3>販売の様子

オ 椿リース

(7) 目的

椿について学習する中で、花を観て楽しむだけでなく、椿の種や種殻を利用することができることを知った。椿の良さを知ってもらうため、その種や種殻を利用してリースを作ることを考案した。そして、それを各福祉施設にプレゼントし、小松の椿文化を広めたいと考えた。

(イ) 活動内容

① 椿の種と種殻の収穫

「椿千年の森」にて、椿の種と種柄を収穫した<写真1>。自然に落ちていたものを約100個収穫した<写真2>。



<写真1>左:種殻 右:種

② リース作り

収穫した種を布で磨き、汚れを落とす。ニスプレーを吹きかけ、乾かす。リースの土台に種や種殻をボンドで固定する<写真3>。
リース9個が完成した<写真4>。



<写真2>収穫の様子



<写真3>リース作り



③ 福祉施設へプレゼント

完成したリースは、デイサービス実習や保育実習でお世話になっている施設にプレゼントした<写真5>。



<写真4>完成したリース



<写真5>プレゼントした様子

カ 椿ジャム

(7) 目的

今回の実験を行う前に、椿千年の森に咲いている複数の椿でジャムを作るとえぐみを感じた。調べてみると、ヤブ椿という品種はえぐみが少なく食用に用いられることが多いということが分かった。このことから、椿の品種による違いがどの程度あるかを比較するため、3品種の花びらを別々に調理した。

(イ) 活動内容

① 「椿千年の森」で花の収穫

② 花びらの選別<写真1>

一つ一つの花から、花びらだけを選別した。ヤブ椿以外の花をそれぞれ椿A、椿Bとする。



<写真1>椿A



椿B



ヤブ椿

③ 準備物

- ・花びら（3種類）
- ・レモン汁
- ・砂糖
- ・水
- ・リンゴの皮（ペクチンの代用）
- ・鍋

④ 実験

【方法】

- 1) 花びらをレモン汁でもむ<写真2>。
- 2) 鍋に砂糖と水、花びら、リンゴの皮を入れる。
(レモン汁は捨てない。)
- 3) 煮詰める
- 4) 残っているレモン汁を加え煮詰める<写真3>。
- 5) 試食・観察を行う。<写真4>



<写真2>レモン汁でもむ



<写真3>煮詰める



<写真4>3種類の花びら左から椿A、椿B、ヤブ椿の順

⑤ 結果と考察

3品種の花を採取し、ジャムに加工し比較した<表1>。全体的に少し硬く、渋みを感じた。加熱時間が15分程であったため、加熱時間の延長やレモン汁で揉み、漬けておく時間を長くすると食べやすさが増すのではないかとと思われる。色はレモン汁の酸で、赤やピンクに染まり、数日経っても退色しなかった。炭酸水に入れるなど色が楽しめるようなレシピにも活用したい。今回、ヤブ椿以外の2品種は品種名が分からなかったため今後確認を行う必要がある。

＜表1＞ジャムの比較結果

	えぐみ	色合い	食感
椿A	えぐみがある。食べにくい。	薄い赤	少し分厚く、ぶどうの皮のような食感。口に残る。
椿B	えぐみが少ない。食べやすい。	濃いピンク	花びらが薄く比較的食べやすい。
ヤブ椿	えぐみが少ない。食べやすい。	濃い赤	花びらが薄く比較的食べやすい。

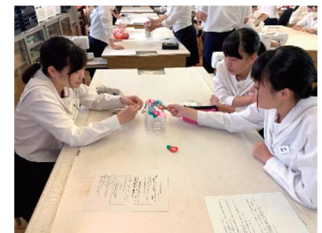
キ 椿の折り紙

(ア) 目的

折り紙で作成した椿を校内等に掲示し、椿文化の普及と伝承につなげる。

(イ) 活動内容

課題研究の時間に、折り紙で椿を作成した。赤色やピンク色だけでなく、篤山椿をイメージして白色でも作成した。作成した椿は、各教室に設置するペットボトルキャップ収集箱に、家庭クラブ委員が貼り、椿が満開のデザインに仕上げた＜写真1＞。各教室に設置することで、全校生徒が椿文化に触れる機会となった。また、立体の椿も作成し、家庭科の教室前に掲示した。枯れることがないため、季節を問わず椿を飾ることができた＜写真2＞。



＜写真1＞ペットボトルキャップ収集箱

(ウ) 生徒の感想

- ・最初は折るのが難しかったけど、慣れると簡単だった。この椿をきっかけにみんなに椿文化を知っていてほしいと思った。
- ・立体の椿は、本物みたいでいいと思った。他の教室で自分が作った椿が貼られているのを見ると嬉しかった。



＜写真2＞立体的な椿

ク 椿の染色実験

(ア) 目的

椿の花を利用して、布を染色し、ストールや衣服を製作する。それを地域の特産品にしたいと考えた。

(イ) 活動内容

椿の花びらで布を染色する。工程を次に示す。

① 椿の花の乾燥＜写真1＞

使用した椿の花は、乾燥させ、保存しておいたもの。



＜写真1＞乾燥花びら

② 花びらの選別<写真2>

一つ一つの花から、花びらだけを選別した。

③ 準備物<写真3>

- ・試料 布（天然繊維4種、合成繊維6種）
- ・酢
- ・ミョウバン

④ 実験

4班に分かれ、媒染液や染色方法を変え、10種類の布を染色する。

【方法】<表1>

- 1) 鍋に水と酢を入れる。
- 2) ガーゼに包んだ花びらを鍋に入れる。
- 3) 色を出すために、加熱する（1・2班）。水で抽出する（3・4班）<写真4>。
- 4) 最後にミョウバンを加える（2・4班）。
- 5) そのまま2日間浸けておく<写真5>。
- 6) 浸けておいた布を取り出し、色の違いを観察した<写真6>。

<表1>実験方法比較

班	媒染液	花の色	方法	仕上げ
1	酢	濃い赤色	加熱する	なし
2	酢	濃い赤色	加熱する	ミョウバン
3	酢	濃い赤色	水に入れる	なし
4	酢	濃い赤色	水に入れる	ミョウバン



<写真2>選別



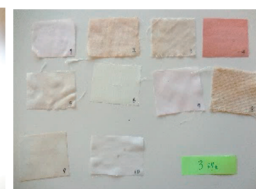
<写真3>準備物



<写真4>色の抽出



<写真5>浸け置き



<写真6>染色後の様子

⑤ 考察

- ・布地は、4番の「絹」が一番よく染まった。
- ・1、4班が鮮やかなピンク色に染まった。
- ・染色3か月後には、退色してしまう。今後は、退色しない方法も研究する必要がある。

(3) はだか麦の研究

ア はだか麦に関する講義

(ア) 講師 東予地方局 産業経済部 地域農業育成室 専門員 二神 種紀 氏

(イ) 目的

西条市が全国一の生産量を誇るはだか麦について教えていただくことで、地域の特産物であるはだか麦についての知識を身に付け、関心を持たせる。

(ウ) 内容＜写真1＞

- ・はだか麦の歴史について
- ・はだか麦の生産量の推移について
- ・はだか麦の種類や成分について
- ・はだか麦の加工品について



＜写真1＞講義の様子

(エ) 生徒の感想

- ・西条市は、はだか麦の生産量が全国一だということを初めて知り、驚いた。
- ・はだか麦について、少し興味を持った。
- ・はだか麦を使った加工品がたくさんあることがわかった。
- ・はだか麦の実物を初めて見た。店舗で販売されているか探してみようと思った。
- ・加工品のクッキーがおいしかった。

イ ピцца作りについての研修

(ア) 講師 飲食店「マルブン」社長 眞鍋 明 氏

(イ) 場所 ピッツェリアマルブン南高井店

(ウ) 目的

8月に開催予定の小松未来塾（まちかど家庭科室～ふらっと①～）で、ピцца作りの講習をするに当たり、コンソーシアムのメンバーでもある眞鍋氏よりピцца作りについての知識を教えていただき、講習会の企画運営に生かす。

(エ) 内容＜写真2＞

- ・ピццаの具材とソースの相性について
- ・玉ねぎをベースにしたホワイトソースの作り方について
(はだか麦の加工品であるみそと相性が良いのではないかと)
- ・具材の盛りつけ方や焼き方について
- ・試食



＜写真2＞研修の様子

(オ) 生徒の感想

- ・職人技で手際よくピццаを作っていてすごいと思った。
- ・玉ねぎベースのソースがあることを初めて知った。
- ・いろいろな具材とそれぞれの具材に合うソースを組み合わせたピццаを数種類食べさせてもらったが、どれもこれもおいしくて感動した。
- ・小松未来塾までに、みそを取り入れたおいしいソースができるよう研究したいと思った。
- ・社長さんがわかりやすく丁寧に教えてくださり、また、いろいろなメニューを食べさせてくださり、幸せな時間を過ごすことができた。

ウ 小麦粉を使った料理コンテスト

(ア) 目的

西条市の特産品であるはだか麦を知らない高校生が多い。その理由は、「はだか麦」を使った料理やお菓子などの商品が少なく、なじみのないことが原因と考えられる。そのため、子どもから高校生、高齢者にもおいしく食べていただけるようオリジナルレシピを考案した。

そして、第50回全国高校生料理コンクールにも応募した。

(イ) 活動内容

レシピを考案し、作り方の研究を行い、調理をした。その工程と作品を次に示した。

・ 6月16日～23日 オリジナルレシピ考案

・ 6月24日 調理＜写真1＞



＜写真1＞はだか麦を使った調理

【レシピ1】

料 理 名	さくさくホロホロクッキー ～はだか麦を使って～	
材 料	分 量 (30 枚)	写 真
薄力粉	130 g	
はだか麦	120 g	
ベーキングパウダー	大1	
グラニュー糖	50 g	
塩	小 1/3	
無塩バター	60 g	
牛乳	100 g	
さつまいも	100 g	
さくさくホロホロのクッキーに仕上がった。はだか麦の黒い粒が少し見えている生地になったが、食べたときには気にならない。蒸したさつまいものアクセントも良い。		

【レシピ2】

料 理 名	はだか麦のガトーショコラ	
材 料	分 量 (15 cm型 1 台)	写 真
薄力粉	15 g	
はだか麦	25 g	
卵	3 個	
グラニュー糖	100 g	
板チョコ	140 g	
生クリーム	100 g	
ドライフルーツ	30 g	
無塩バター	60 g	
ココアパウダー	45 g	
味や食感は、薄力粉のみ使用した時とあまり変わらなかった。ドライフルーツを入れて、工夫をした。		

【レシピ3】

料 理 名	野菜たっぷりはだか麦ピッツァ	
材 料	分 量（1枚分）	
はだか麦	40 g	
強力粉	50 g	
ドライイースト	3 g	
オリーブオイル	大3	
水	30 g	
塩	ひとつまみ	
チーズ	20 g	
ピーマン	30 g	
とうもろこし	30 g	
玉ねぎ	20 g	
ウインナー	20 g	
トマト	50 g	
ケチャップ	大5	
薄い生地にしたので、パリッと仕上がり、とてもおいしかった。野菜も西条産のものを使用した。		

【レシピ4】

料 理 名	はだか麦のパウンドケーキ	
材 料	分 量 (パウンドケーキ型1台)	写 真
はだか麦	33 g	
薄力粉	32 g	
卵黄	45 g	
卵白	90 g	
グラニュー糖	28 g	
フルーツ	適量	
薄力粉のみのケーキと比べると、膨らみが少なかった。しかし、しっかりとしたスポンジになり、味もおいしくできた。		

【レシピ5】

料 理 名	はだか麦のチョコスコーン	
材 料	分 量（6枚分）	写 真
はだか麦	140 g	
ココアパウダー	15 g	
グラニュー糖	25 g	
ベーキングパウダー	小1 と 1/2	
サラダ油	45ml	
牛乳	60 g	
チョコチップ	40 g	
ドライフルーツ	30 g	
アーモンド	20 g	
はだか麦のみでチョコスコーン。ドライフルーツやアーモンドでサクサクに。		

【レシピ6】

料 理 名	はだか麦パンケーキ	
材 料	分 量 (2枚分)	写 真
はだか麦	60 g	
ベーキングパウダー	小 1/2	
牛乳	100 g	
グラニュー糖	20 g	
卵黄	1 個	
フルーツ	適量	
はだか麦のみで作ったパンケーキ。しっとりと仕上がった。		

【レシピ7】

料 理 名	ぶどうとくるみのはだか麦ケーキ	
材 料	分 量 (ケーキ1台)	写 真
はだか麦	50 g	
アーモンドプードル	30 g	
サラダ油	40 g	
グラニュー糖	60 g	
卵	1 個	
ぶどう	12 粒	
くるみ	適量	
はだか麦とアーモンドプードルのケーキ。ぶどうとくるみの食感の違いを楽しめた。		

Ⅱ - Ⅲ 多世代交流の実施

1 研究の概要

期 日	内 容	科 目	場 所
7月8日	「椿千年の森」清掃活動	学校行事	椿千年の森
7月20日	市内5高校交歓会	課外活動（家庭クラブ）	小松高校
8月24日	小松未来塾（ふらっと①）	課外活動	小松公民館
9月20日	椿の実収穫	フードデザイン	椿千年の森
11月13日	しげのぶ清愛園との交流会	課外活動	しげのぶ清愛園
11月24日	小松街なみウォークラリー （ふらっと②）	課外活動	小松公民館 小松小学校

2 研究の内容

(1) 「椿千年の森」清掃活動・椿の実収穫

ア 「椿千年の森」清掃活動

(ア) 目的

椿文化を伝承するためには、まず椿について知り親しむことが大切である。清掃活動を通して、「椿千年の森」に親しみ、さらに、夏の椿の木がどのような状態か理解を深める。

(イ) 活動内容

「椿千年の森」の草抜きやごみ拾いを行った<写真1>。椿を観察すると実をつけている木が多かった。



<写真1>清掃の様子

イ 椿の実の収穫のお手伝い

(ア) 目的

椿を使った特産品の開発で、椿油を利用する。自分たちで椿油の原料となる椿の実の収穫を行うことで、より椿への愛着心を高める。また、つばき会の方と協働することで椿の知識や日頃の活動について知り、つながりを深める。

(イ) 活動内容

小松つばき会の方々が例年実を収穫し、椿油を作っているというお話をお聞きし手伝わせていただいた。

初めに、小松つばき会会長の佐伯氏から、椿と小松町のつながりについてお話を聞かせていただき、椿の実の収穫をお手伝いした。摘んだ実は乾燥させ、種を取り出し、熊本県の精油を行っている会社へ送付し椿油を抽出しているそうである。小松つばき会の皆さんのサポートのおかげで楽しんで取り組むことができた<写真2>。

今年度は、今回の収穫も合わせて、約75kg収穫し、そこから種は約17kg分採取できたそうである。椿油は1瓶100gで、今年は173本製造できたとのことである。完成した油を使って様々なレシピを考えていきたい。また、来年度は、収穫した実から種の採取の作業も体験させていただきたいと考えている。



<写真2>収穫の様子

(2) まちかど家庭科室へふらっと①～（小松未来塾）

ア 期日 令和元年8月24日（土）

イ 場所 小松公民館

ウ 目的

地元である小松中学校の生徒たち及びその保護者の方と一緒にピッツアを作り、多世代交流を図る。
また、地域の「おやじ部」の方たちとも協力して運営する。はだか麦のみそを使ったソースを使い、
はだか麦の紹介、消費普及の機会とする。

エ 実施内容＜写真1＞

- (ア) 事前準備（ピッツアのソース作り）
- (イ) 事前準備（材料分け、役割分担等打合せ）
- (ウ) 学校（ライフデザイン科）紹介
- (エ) 生地作り
- (オ) 具材作り
- (カ) ソースの紹介
- (キ) 焼き上げ
- (ク) 試食・歓談
- (ケ) 片付け
- (コ) 反省・感想等意見交換



オ 生徒の感想

- ・中学生と一緒に楽しく活動できた。
- ・人に教えたりするのは初めてだったけど、時間がたつにつれて慣れてきた。
- ・おやじ部の方や地域の方とも協力したので、スムーズに進めることができた。
- ・みそ入りのソースよりみそが入っていないソースの方が中学生には人気だったが、大人からは「みそ入りのソースもおいしいよ。」と言ってもらい、嬉しかった。

＜写真1＞小松未来塾の様子

カ 成果と課題

参加した生徒たちは、教えたり一緒に作業をしたりする中で、地元の中学生との交流を図ることができたのではないかと思います。また、保護者の方や多数の地域の大人たちと関わることもでき、良い交流の機会となった。今後は、企画・運営の方法や、はだか麦の利用について研究していきたい。

(3) しげのぶ清愛園との交流会

ア 期日 令和元年11月13日（水）

イ 目的

しげのぶ清愛園の利用者と小松高生との交流を通して、地域の施設と学校とのつながりを築き、生徒の他者理解やコミュニケーション能力を高める。

ウ 日程

10:00～ 開会行事

10:10～ 午前の活動

生活介護（創作活動：しおりの制作）

就労継続（農作物：ねぎの収穫・包装）＜写真1＞

就労移行（洋裁：テトラポーチの作製）＜写真2＞

12:00～ 昼食 ＜写真3＞

13:00～ 午後の活動

レクリエーション（ボッチャ）＜写真4＞

14:00～ 閉会行事

エ 生徒の感想

- ・しげのぶ清愛園との交流でたくさんを感じることができました。午前中の農作業では、入所者の方がねぎの収穫方法や包装の仕方などを教えて下さったので、うまく作業をすることができました。昼食の時は、一緒に食事をして、とても嬉しそうにしてくれていて、私も嬉しくなりました。交流する中で、健常者であっても、障がい者であっても一人一人の目標に向かって頑張っているんだと感じました。貴重な体験ができて良かったです。
- ・障がい者の方と関わる機会が今までになく、施設に行く前は、少し不安がありました。うまく話せるか、交流できるか少し怖かったです。最初はあまりお互いに打ち解けていなくて話せなかったけど、だんだんとみんなで話すようになり、とても仲良くすることができました。また会いたいと思いました。

(4) まちかど家庭科室～ふらっと②～（小松街なみウォークラリー）

ア 期日 令和元年11月24日（日）

イ 場所 小松公民館・小松小学校

ウ 目的

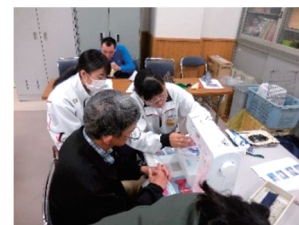
地元である小松小学校の生徒たち及びその保護者の方が参加するウォークラリーで、地域の「おやじ部」の方々と協力して、はだか麦の紹介・普及を図るとともに交流を深める。

エ 実施内容＜写真1＞

- (ア) 当日までの事前準備（米：麦の割合の研究、ポップ作り）
- (イ) 麦入り飯の炊飯
- (ウ) 豚汁の具材の準備
- (エ) 豚汁作り
- (オ) おにぎり作り
- (カ) 運搬準備
- (キ) 小学校での給仕手伝い・交流



＜写真1＞ねぎの収穫



＜写真2＞テトラポーチの作製



＜写真3＞昼食



＜写真4＞レクリエーション



＜写真1＞準備・交流の様子

オ 生徒の感想

- ・「おやじ部」の方々と協力しておにぎりや豚汁を作ったのが楽しかった。
- ・小学生やその保護者の方が「おいしい。」と言って食べてくれたのが嬉しかった。
- ・おかわりをたくさんしてくれて嬉しかった。
- ・こんなにたくさんの量のおにぎりや豚汁を作ったことがなくて大変だったけど、みんなが食べてどんどんなくなっていくのを見ると、何かやりがいというか、頑張って作って良かったなと思った。

カ 成果と課題

地域の方々と触れ合う良い機会となった。小学生へのはだか麦の紹介もできて、今後の研究に向けての意欲にもつながったのではないかと思う。今後は、積極的にこのような活動に参加する生徒を増やしていきたい。

(5) 市内5高校交歓会

ア 期日 令和元年7月20日（金）

イ 場所 小松高校（本校）

ウ 目的

西条市内の5高校の家庭クラブ役員と顧問教師が集まり、担当校が企画した研修を通して交流を深める。今回担当であった本校は、地元の食材である絹かわなすを使ったゼリー作りと椿の花の折り紙講習会をすることで、椿文化の普及にもつながると思った。

エ 実施内容

- (ア) 当日までの事前準備
ゼリーの試作、折り紙の練習
- (イ) 家庭クラブ会長挨拶
- (ウ) 絹かわなすのゼリー
- (エ) 椿の花の折り紙<写真1>
- (オ) カレンダーへの貼り付け<写真2>
- (カ) 試食・交流<写真3>



<写真2>カレンダー



<写真1>椿の花の折り紙



<写真3>交歓会の様子

オ 生徒の感想

- ・企画して運営するのは大変だったけど、無事終わったのでほっとした。
- ・みんなが一生懸命椿の花を折ってくれて嬉しかった。
- ・顧問の先生方も一緒に椿の折り紙をしてくれてよかった。
- ・短い時間だったけど、楽しい交流の時間になった。
- ・椿の花が咲く頃に、また思い出してもらえるといいなと思った。

カ 成果と課題

同世代の高校生や顧問の先生方との交流の場で、地元の食材や椿の花について考える時間を持つことができた。担当校ということで、企画や運営について体験を通して学んだことも多かったと思う。今後は、参加してくれた高校生が、地域の多世代交流の場において、今回の交歓会で得たものが少しでも参考になれば有難い。また、本校でも、各世代に楽しんでもいただけるような交流内容の研究を進めていきたい。



<写真4>記念撮影

Ⅱ - IV 成果発表

1 西条市公民館フェスティバル

(1) 日時 令和2年1月19日(日)

(2) 場所 西条市中央公民館

(3) 日程

10:00～ ステージ発表

10:30～ バザー販売

(4) ステージ発表 <写真1>

発表者 ライフデザイン科 1年 3名

小松未来塾をはじめ、小松公民館と協働して行った取組について発表した。



<写真1>ステージ発表

(5) マフィンの販売

ア マフィンの試食(1月14日(火))

生徒アンケートを基に、トッピングや味を工夫したマフィンを、(株)DECOの處さんが作ってくださった。試食を行い、感想をまとめた<写真2>。

- ・150円だと少し高いのかなと感じた。
- ・普段黒豆を食べられないけど、とてもおいしかった。抹茶と合っていた。黒豆を炊くのは大変だから、ココアクッキーなどをトッピングすると手軽だと思う。
- ・本当にどれもおいしかった。子どもにはいちごやチョコレート味、大人には抹茶味が受けると思う。



<写真2>試食



イ マフィン作り(1月18日(土):小松公民館)<写真3>

マフィン作りは、手順やラッピング等自分たちで試行錯誤しながら作ることができた。大きめのカップで作ったマフィンはキャラクターに見えるようにデコレーションをしたり、大きめのココアクッキーをトッピングしたりした。小さめのカップで作ったマフィンはイチゴ味、抹茶味、裸麦の押し麦をトッピングしたものを焼き、2～3つを1セットにしてラッピングを行った。



<写真3>マフィン作り

4時間ほどで、105セット用意した<表1>。しかし、イベントで販売することを考えると少なくとも200セットは必要だと處さんからアドバイスをいただいた。今回は100セットしか用意できていないため、何を作るか考えるとき作業効率も考えなければならないと感じた。

<表1>種類と販売数

	キャラクター	ココアクッキー トッピング	2～3個入り
袋数	34	3	68
販売価格	150円	130円	100円

ウ 販売＜写真4＞

10時30分から販売を開始し、11時30分にはすべて売り切れた。特に、キャラクターのマフィンはすぐに完売した。何をどれくらい作るか、魅力的なポップ作り、販売方法など、今後も改良したい点が見つかった。



＜写真4＞販売の様子

エ 生徒の感想

- ・緊張したけど、本番ではしっかり発表できたのでよかったです。
- ・発表するときは、めちゃくちゃ緊張しました。でもあまり噛まずに読むことができたので良かったです。
- ・公民館や地域の人にあいさつすることができた。
- ・販売するとき、ありがとうございますなどの声をいっぱいかけられたのが良かったです。みんなで協力しておいしく作れたし、全部売れたので良かった。
- ・反省点はもう少しマフィンの数を増やせたらよかった。また、キャラクターのマフィンは150円だったけど人気だし、値段を上げてもいいと思う。
- ・ラッピングにつけるリボンや飾りを手作りで作りたいと思った。少し値段を上げてもいい。

2 令和元年度「えひめスーパーハイスクールコンソーシアム in 東予」

(1) 日時 令和2年1月28日(火)

(2) 場所 西条市総合文化会館

(3) 日程

10:00～ 開会式

10:15～ ステージ発表

12:00～ 展示・体験ブース

13:30～ 地域活性化サミット

14:15～ 閉会行事

(4) ステージ発表 ＜写真1＞

ア 発表者 ライフデザイン科 1年 3名



＜写真1＞ステージ発表

令和元年度「えひめスーパーハイスクールコンソーシアム」ステージ発表資料

地域との協働による高等学校教育改革推進事業

「生活文化の伝承と多世代交流 共生のまちづくりに貢献する人材の育成」

1 研究の背景及び目的

本校ライフデザイン科は、県立高校唯一の家庭に関する専門学科として、専門教科「家庭」を幅広く学び、将来地域社会に貢献できる生徒の育成を目指している。平成 27 年度には、「地域の担い手のための専門科目における指導法の研究」において、「地域のスペシャリストとして、他者と協働しながら地域に根差す生徒を育てる効果的な指導方法を整理・研究し、地域と共に育つ意識を持った生徒を育てる」という目標を掲げ、研究に取り組んだ。

本研究では、その研究を発展させ、少子高齢化が進展する中、「持続可能な社会の構築に向け、課題意識を持ち、生涯にわたって様々な人と協働しながら、地域課題の解決を目指して主体的に行動し、生活文化の継承、生活産業の振興や多世代交流、共生のまちづくりに貢献する地域人材の育成」を目的としたカリキュラム開発の研究として、3 年間の事業に取り組んでいる。

2 研究内容

SDGs の観点から、地域と協働しながら課題の発見・解決に向けて、テーマを設定し実践している。＜資料 1＞この研究により、地域人材に必要な資質を備えた生徒を育成したい。＜資料 2＞

今年度は、次のような研究を進めてきた。

(1) 伝統文化・地域特産品の良さを学習する

ア 伝統産業見学（東予地域の伝統産業・生活産業）

イ 椿・魚食＜写真 1＞・はだか麦の学習

＜写真 1＞お魚料理講習

(2) 地域課題の発見・解決方法を学習する

ア 県外視察（徳島、兵庫、東京・千葉）＜写真 2＞

イ SDGs 学習①（地域課題の発見）

ウ SDGs 学習②（カードゲーム）＜写真 3＞

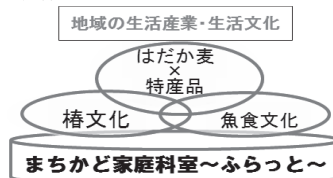
エ タブレットを活用した調べ学習や協働学習

(3) 多世代交流の機会を設ける

ア まちかど家庭科室 ～ふらっと～（小中学生・保護者との交流）

イ 多世代交流による地域コミュニティ参加

＜資料 1＞



＜資料 2＞

- 地域の産業に従事し、生涯にわたって地域に貢献したいと考える生徒の育成
- 地域課題を踏まえ、共生のまちづくりのパートナーとして高度な知識技能を身に付けようとする生徒の育成
- 多様な立場の人や機関と進んで関係を構築する生徒の育成



＜写真 2＞東京：愛媛アンテナショップ



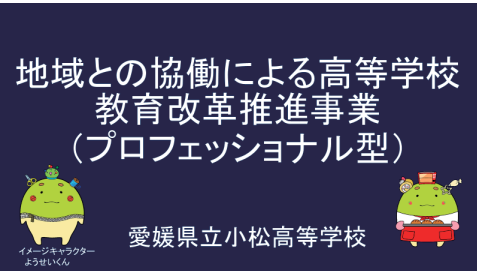
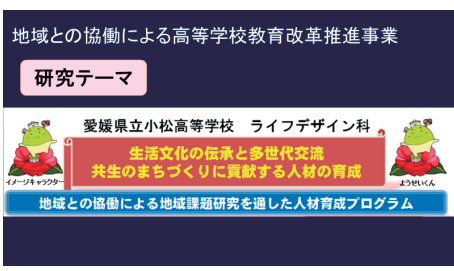
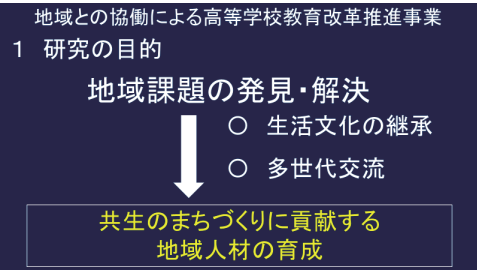
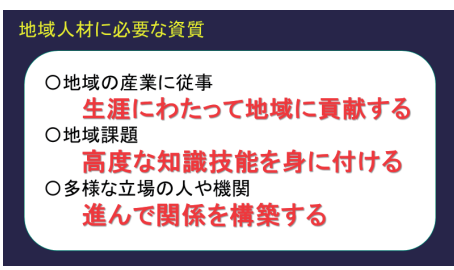
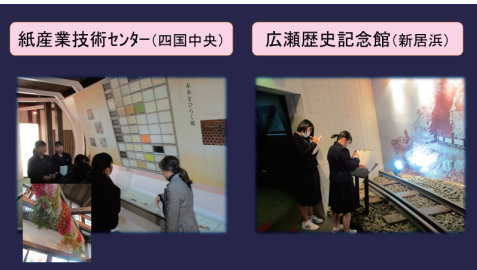
＜写真 3＞SDGs カードゲーム



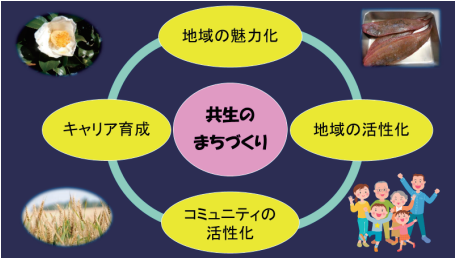
3 今後の展望および課題

今後は、地域が誇る貴重な資源や食文化を若い世代に伝えるだけでなく、地域資源や伝統文化に付加価値を付けられるような、新たなレシピや加工品を開発して普及するとともに、各種コンテストに挑戦したい。そして、地域への誇りや愛着心を醸成し、地域の魅力化・活性化に仲間と共に自ら寄与する人材を育てていきたい。また、子育て支援や高齢者の生きがいをいづくりに参画し、コミュニティの活性化を図りたいと考える。

ウ 発表スライド（一部抜粋）

1	 地域との協働による高等学校 教育改革推進事業 (プロフェッショナル型) 愛媛県立小松高等学校	2	 小松高校 ライフデザイン科 県内の県立高校で、唯一 家庭に関する学科を有する
3	 「好き」を力に変える	4	 地域との協働による高等学校教育改革推進事業 研究テーマ 愛媛県立小松高等学校 ライフデザイン科 生活文化の伝承と多世代交流 共生のまちづくりに貢献する人材の育成 地域との協働による地域課題研究を通じた人材育成プログラム
5	 地域との協働による高等学校教育改革推進事業 1 研究の目的 地域課題の発見・解決 ↓ ○ 生活文化の継承 ○ 多世代交流 共生のまちづくりに貢献する 地域人材の育成	6	 地域人材に必要な資質 ○ 地域の産業に従事 生涯にわたって地域に貢献する ○ 地域課題 高度な知識技能を身に付ける ○ 多様な立場の人や機関 進んで関係を構築する
7	 2 研究内容 ・生活産業や生活文化の継承 ・地域産業を担う人材育成 ・地域コミュニティの再構築 地域の生活産業・生活文化 はだか麦 特産品 稲文化 × 魚食文化 まちかど家庭科室～ふらっと～	8	 (1)伝統文化・地域特産品の良さを学習する ア.伝統産業見学 タオル美術館(今治) 日本食研(今治)
9	 紙産業技術センター(四国中央) 広瀬歴史記念館(新居浜)	10	 (1)伝統文化・地域特産品の良さを学習する イ. 稲・魚食・はだか麦の学習 稲 稲についての講義 小松つばき会 黒川雅子先生による講義 「稲 文藝の町 小松高等学校」
11	 稲の花の観察 稲の実の収穫 いろいろな種類があるよ！ 稲油のために、たくさん収穫！	12	 稲の種でリース作り 稲のクッキーづくり 稲油・はだか麦入り 福祉施設にプレゼント！ 小松文化祭で販売したよ

13	椿カレンダーづくり  椿カレンダー人気投票 パソコンで作成 小松文化祭で投票していただきました。	14	かき氷コンテスト 総合優勝 ストーリー賞 かき氷コンテスト 「まるごとTSUBAKI」 椿の花のようなかき氷です
15	お魚料理教室 わあ〜、初めて触った〜! 漁業組合女性部の方々より講義	16	お魚を使った高校生料理コンテスト 優勝 西条のハモと絹かわなすを使ったレシピ♪ やったあ〜優勝!
17	はだか麦 はだか麦についての講義  これがはだか麦かあ。 東予地方局 二神種紀先生	18	はだか麦を使ったレシピ開発  美味しくできるかなあ〜 「さくさくホロホロクッキー」 「ぶどうとくるみのはだか麦ケーキ」
19	(2)地域課題の発見・解決方法を学習する ア.県外視察 徳島県上勝町視察 町全体が活性化してるなあ... 葉っぱビジネスを学ぶ 「彩(いろどり)事業」や「SDGs」について講義	20	尼崎サマーセミナー視察 多世代協働の取組を学ぶ なんと小学生が先生でした。 たくさんイベントがあるなあ〜 実行委員の皆さんから話を聞きました
21	愛媛アンテナショップ視察(東京)  東京でも販売したいなあ... 東京都丸の内及び新橋のアンテナショップにて	22	(2)地域課題の発見・解決方法を学習する イ.SDGs学習① 地域課題の発見  西条市が活性化するためには... ・西条市 市民生活部 ・NPO法人西条まちづくり応援団 より講義
23	ウ.SDGs学習② SDGsについて講義  SDGs新居浜KITEより講義	24	(3)多世代交流の機会を設ける ア.まちかと家庭科室〜ふらっと①〜 小松未来塾 はだか麦&味噌を使ったピッツア作り 中学生及び保護者と一緒に 小松公民館にて

25	イ.多世代交流による地域コミュニティ参加 香園寺お茶接待 お手伝い  お遍路さんへお抹茶とお茶菓子でおもてなし	26	乳幼児との交流  西条市小松町の保育所と幼稚園で 料理教室への参加
27	3. 今後の展望および課題 地域資源や食文化 → 若い世代にも伝える 新たなレシピや加工品開発 → 各種コンテストへの挑戦	28	

(4) 展示・体験ブース <写真2>

ア 担当者 ライフデザイン科 2年 4名

イ 展示内容

本事業に関する作品や技術検定の作品を展示した。

ウ 体験ブース

椿柄の布を使用して、ポケットティッシュカバーを作製した。基礎的な裁縫技術でできるよう、事前に布の裁断、縫製をして準備をした。中学生が多く体験に参加し、高校生が縫い方を教えながら交流することもできた。



<写真2>体験ブース

(5) 地域活性化サミット（パネルディスカッション）<写真3>

ア 担当者 ライフデザイン科 1年 1名

イ 主題 「高校生が考える、えひめ東予の地域活性化」

ウ 内容

(ア) 自己紹介（抜粋）

私は食べることや物を作ることが好きです。進路希望はしっかりと決まっていますが、私がライフデザイン科で学んでいる調理・被服関係に関わる仕事に就きたいと思っています。そのため、検定をしっかりと取得して進学・就職のときに生かせるよう知識や技術を身に付けたいです。現在小松地域では、少子高齢化が進んでいます。小松町が活性化して、若い世代が住み続けたい町になるには何が課題か、西条市の職員の方々と付せんや、模造紙を使って考え、解決策をまとめました。また、私たちは「椿文化・はだか麦・魚食」について研究を行っています。椿は、実際に小松高校の南西にある椿千年の森で、つばき会の方が椿油を作るのに使う椿の実を収穫したり、花が咲いたら、花の名前を調べたりしました。はだか麦は、東予地方局の方に来ていただいて詳しいお話を聞いたり、はだか麦を使ったピザの試作を行ったりしました。魚食は、漁協の女性部の方に来ていた



<写真3>パネルディスカッション

だき、魚についてのお話を聞いたり実際に魚をおろして調理実習を行ったりしました。また、SDGsのことも勉強しています。持続可能な社会について考えるためのカードゲームをしたり、お話してもらった事を基にして勉強しています。

(イ) 質疑応答

「高校生として地域に貢献できることは？」

- ・今の時代は、インターネットやSNSが普及していると思います。高校生だからこそインターネットやSNSなどを用いてイベント情報や地域の良いところを地域だけではなく、たくさんの方々に発信できるのではないかと思います。また、高校生ならではのユニークなアイデアもたくさん出ると思います。

「地域活性化や地域貢献を進めていく上で困難に感じることは？」

- ・金銭的な面(活性化につながるようなイベントの経費)などが、厳しいのではないかと感じています。

「卒業後の進路は？」

- ・私の進みたい進学先が県外にあり、その県で就職したいと考えています。確かに、地元にも魅力はたくさんあります。生まれ育ち住み慣れた土地でもあることや、親や兄弟も近くにいるし、地元に残っている友達もたくさんいるところは魅力です。しかし、この辺りは、学校や若い人が集まれる場所やお店がないため、今は、都会の暮らしを体験してみたいと考えています。今取り組んでいる高校生としての地域活性化活動、都会での体験を経て地域に貢献できることを考え、実践していきたいです。

3 ホームページ掲載一覧

(1) 旧ホームページ（＜図1＞）令和元年9月11日までの公開

ア 掲載内容（日時は掲載日時）

4月15日(月) えひめさんさん物語1

かき氷イベント説明会の様子

5月31日(金) 「水の物語」ワークショップ

かき氷開発にかかわるワークショップ

6月17日(月) 「水の物語」ワークショップ②

「水の物語」への参加に向けての準備

7月8日(月) これからの地域づくり

「これからの地域づくり」についての講義

7月24日(水) えひめさんさん物語かき氷プロジェクト取材

「えひめさんさん物語」のかき氷プロジェクトについての取材

7月25日(木) えひめさんさん物語かき氷プロジェクト準備①

「くらしとごはんリクル」さんとコラボし、オリジナルかき氷を開発

7月28日(日) えひめさんさん物語かき氷プロジェクト準備②かき氷ソース作り

「くらしとごはんリクル」さんの御指導を受けながら、のかき氷ソース作り

7月30日(火) えひめさんさん物語かき氷プロジェクト準備③こだわりのシロップ作り

「くらしとごはんリクル」での西条産の果物を使ったシロップ作り

8月3日(土) えひめさんさん物語かき氷プロジェクト準備④果物のコンポート作り

カットした果物を煮つめてのシロップ作り

8月4日(日) 五百亀記念館展示

西条市の五百亀記念館（西条高校横）での特別展示

8月7日(水) 優勝！ 魚を使った高校生料理コンテスト

西条市藻場づくり環境保全協議会主催「魚を使った高校生料理コンテスト」優勝

8月8日(木) えひめさんさん物語かき氷プロジェクト準備⑤アイスクリーム成型

かき氷【まるごとTSUBAKI】の中に入れるアイスクリームを成型

8月9日(金) えひめさんさん物語かき氷プロジェクト準備⑥シロップ作り

桃とすもものシロップ作りとPRタイムの練習

8月10日(土) えひめさんさん物語かき氷プロジェクト販売開始

小松高校&くらしとごはんリクルさんとのコラボかき氷【まるごとTSUBAKI】の販売

8月11日(日) まるごとTSUBAKI 発進

かき氷「まるごとTSUBAKI」がいよいよお目見え

8月11日(日) まるごとTSUBAKI 総合優勝！

小松高校&くらしとごはんリクルとのコラボかき氷【まるごとTSUBAKI】が総合優勝を獲得

8月22日(木) はだか麦の学習

地域の農産物である「はだか麦」についての学習

8月25日(日) ときめきレシピコンテスト

「絹かわなす」を使用した料理のレシピ考案

8月26日(月) 小松地域未来塾(第1回まちかど家庭科室～ふらっと～)

小松地域未来塾での高校出前講座で、中学生にピザづくりを指導

9月2日(月) 尼崎サマーセミナーの様子

1年生ライフデザイン科生徒18名が、県外研修で尼崎市に行ったときの様子

イ 課題、今後の取組等

令和元年9月11日まで公開していたホームページのブログ「養正が丘日記」に、事業の取組が行われるごとに掲載をしていった。

既存のホームページへの掲載となり、学校での出来事やお知らせなどの中に時系列もあいまいなままで掲載していったため、地域協働に関するものがひとまとまりにならず、あとで振り返りができにくい状態になっていた。

なお、このホームページは、令和2年3月31日で閉鎖することになっているため、新ホームページを夏季休業中に作成し、9月より運営することになった。

新ホームページでは、地域協働事業に特化したページを開設し、閲覧者に分かりやすいページを構築することにした。



<図1>旧ホームページ

(2) 新ホームページ<図2>

令和元年9月12日からの公開であるが、それ以前の内容も再度編集して掲載したページもある。

ア 掲載内容

番号	実施日	内 容	分 野
1	6月6日	文部科学省から研究指定	
2	6月10日	椿薫の文教の町の小松高等学校	伝統文化継承と特産品開発
3	6月13日	かき氷プロジェクトワークショップ	伝統文化継承と特産品開発
4	7月4日	椿カレンダーの打ち合わせ	伝統文化継承と特産品開発
5	7月5日	これからの地域づくり	地域課題の発見・解決

6	7月8日	「椿千年の森」の整備	伝統文化継承と特産品開発
7	7月11日	「えひめさんさん物語」かき氷プロジェクト進行中	伝統文化継承と特産品開発
8	7月12日	はだか麦の学習	伝統文化継承と特産品開発
9	7月19日	かき氷プロジェクト シロップ試作	伝統文化継承と特産品開発
10	7月30日	第一回コンソーシアム・運営指導委員会	コンソーシアム・運営指導委員会
11	8月5日	尼崎市「サマーセミナー」参加	先進地域・先進校視察
12	8月6日	東京アンテナショップ・千葉県立館山総合高校視察	先進地域・先進校視察
13	8月6日	徳島県上勝町「葉っぱビジネス」視察	先進地域・先進校視察
14	8月7日	かき氷コンテスト本番に向けてのシロップづくり	伝統文化継承と特産品開発
15	8月8日	ピッツェリアマルブン見学	伝統文化継承と特産品開発
16	8月8日	かき氷コンテスト用椿の葉摘み	伝統文化継承と特産品開発
17	8月11日	かき氷コンテスト いよいよ本番	伝統文化継承と特産品開発
18	9月24日	小松未来塾(まちかど家庭科室～ふらっと①～)	多世代交流と地域の活性化
19	9月24日	魚文化の学習	伝統文化継承と特産品開発
20	9月27日	「SDGs」についての調べ学習	地域課題の発見・解決
21	9月27日	つばきカレンダー作成中	伝統文化継承と特産品開発
22	9月27日	椿の実の収穫	伝統文化継承と特産品開発
23	9月30日	先進地、先進校視察 県外研修報告会	先進地域・先進校視察
24	10月7日	地域課題について考えるワークショップ	地域課題の発見・解決
25	10月9日	SDGsカードゲーム	地域課題の発見・解決
26	11月4日	小松高祭で椿カレンダーの投票を行いました。	伝統文化継承と特産品開発
27	11月11日	小松文化祭での椿カレンダー投票	伝統文化継承と特産品開発
28	11月18日	情報発信の方法について	地域課題の発見・解決
29	11月18日	おにぎりの試作	多世代交流と地域の活性化
30	11月24日	小松小学校「PTA親子ふれあい小松街なみウォークラリー」(まちかど家庭科室～ふらっと②～)	多世代交流と地域の活性化
31	12月6日	伝統産業研修	伝統文化継承と特産品開発
32	12月16日	中央公園、椿千年の森での椿の観察	伝統文化継承と特産品開発
33	12月17日	魚料理講習会	伝統文化継承と特産品開発
34	1月10日	「えひめスーパーハイスクールコンソーシアム in 東予」の事前打ち合わせに参加	成果発表
35	1月18日	公民館フェスティバル準備	多世代交流と地域の活性化
36	1月19日	公民館フェスティバル	多世代交流と地域の活性化
37	1月20日	SNSを使った発信方法について	地域課題の発見・解決
38	1月27日	「えひめスーパーハイスクールコンソーシアム in 東予」のための発表練習	成果発表
39	1月28日	えひめスーパーハイスクールコンソーシアム in 東予	成果発表



＜図2＞新ホームページ

イ 課題、今後の取組等

愛媛スクールネット（ESnet）外部公開用ホームページを新しく構築する時期の期限が今年度末となっていたこともあり、ちょうど、本校の開校記念日である令和元年9月12日から新ホームページを公開とすることにした。

旧ホームページで公開していたブログ「養正が丘日記」の他に、地域協働事業（文科省指定）というブログを作り、事業の取組を時系列で書き込むようにした。また、取組の分野を「コンソーシアム・運営指導委員会」「伝統文化継承と特産品開発」「地域課題の発見・解決」「多世代交流と地域の活性化」「先進地域・先進校視察」「成果発表」として、行った取組内容を整理し、成果発表の場として、閲覧する方が分かりやすいページづくりを行っている。

来年度も事業の成果発信方法の一つとして、更に充実したホームページとしたい。

Ⅲ 研究の成果と今後の課題

1 研究の成果と評価

(1) 研究の特徴

ア 学習内容の教育課程内における位置付け、教科等横断的な学習とする取組

本事業は、ライフデザイン科対象のプロフェッショナル型事業で、今年度は1年生が実施学年となっている。また、対象教科は、普通教科「家庭」・専門教科「家庭」で、「課題研究」「生活産業基礎」が主な対象科目である。しかし、実際には、「課題研究」「生活産業基礎」に加え、「家庭総合」「フードデザイン」、学校行事、特別活動である食物部の部活動、課外活動である家庭クラブの時間などを利用し、事業を実施した。

イ プロフェッショナル型の趣旨に応じた取組

専門的な知識・技術を身に付け地域を支える専門的職業人を育成するため、地域の企業等との連携を図っている。本年度は、「ピッツァリアマルブン」でピザ作りの工夫を教わり、多世代交流（第1回まちかど家庭科室～ふらっと～）として、小松中学校の生徒・保護者と共にピザ作りを実施した。また、「えひめさんさん物語『水の物語』うちぬき氷プロジェクト」における「高校生&店舗オリジナルかき氷」に参加し、「まるごとTSUBAKI」と名付けたかき氷で椿を表現して、グランプリを受賞した。さらに、魚を使った高校生料理コンテストで優勝した料理は、市内飲食店で調理され、受賞生徒らによる試食会が行われた。

これらの探究活動は、「課題研究」や「生活産業基礎」の授業中に外部講師による講演や料理教室を実施して得た知識を基に、課外活動においてレシピ作りを通じて付加価値を加えることを目指し実施している。「課題研究」と「生活産業基礎」だけでは、授業時間数が不足するため、計画的に「家庭総合」「フードデザイン」の授業にも割り振っており、今後、どの活動をどの科目に割り振るのがより適切かを考慮しながらカリキュラム・マネジメントを進める予定である。

(2) 成果の普及方法・実績について

ア 研究開発
【うちぬき氷コンテスト】8月10日（土）・11日（日）、うちぬき氷プロジェクトで「まるごとTSUBAKI」と名付けたかき氷でグランプリを受賞、商品開発で連携した飲食店において夏季期間限定販売された。
【「椿千年の森」の整備】【椿の実の採集】「小松つばき会」の指導で、7月8日（月）に「椿千年の森」の整備、9月20日（金）に椿油製造のための椿の実の採集を行った。
【魚を使った料理コンテスト】8月3日（土）、ハモをテーマとした料理コンテストに出場した。ハモのすり身を絹かなすで挟んでフライにし、麦味噌を入れたトマトソースを添えた主菜と、野菜とハモの唐揚げにキウイソースをかけたマリネの副菜を考案し、優勝した。
【エシカル甲子園への応募】8月に、地域の生活文化や地域課題を考える学習を通して、エシカル消費についてもつながりが深いと感じ、エシカル甲子園2019に応募した。
【リースの制作】椿の種とカサを収穫し、12月19日（木）にリースを作成、福祉施設に贈った。
【はだか麦】8月24日（土）の「第1回まちかど家庭科室～ふらっと～」でのピザ作りに向けて、はだか麦の味噌を使用したソース、はだか麦粉を配合した生地の研究開発に取り組んだ。11

月 24 日（日）の「第 2 回まちかど家庭科室～ふらっと～」では、はだか麦入りおにぎりや麦みその豚汁の研究開発に取り組んだ。
イ 地域課題研究
・生活文化見学や地域課題学習、先進地視察を通して地域の課題を見付け、その解決の手段について探究活動を行った。今後は、普通科にも学習を波及させる。 ・SNS の効果的な発信の方法を学び、今後課題解決のための情報発信を行う。

(3) 目標の進捗状況、成果

①本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）		
ア 卒業時に生徒が習得すべき具体的能力の定着状況を測るものとして、管理機関において設定した成果目標		
目標の内容	目標値	進捗状況
課題研究を通して課題解決能力が向上したと答える生徒の割合	70%	1 月 75.9%
コンクールやコンテストの入選回数	周知	市町村レベルでは 3 回入賞
地域社会に役立ちたいと考える生徒の割合	70%	7 月 67.7%、11 月 54.8% 1 月 72.4%
イ 高校卒業後の地元への定着状況を測るものとして、管理機関において設定した成果目標		
就職者のうち地元就職する生徒の割合	—	—
将来地元での就業を希望する生徒の割合	50%	1 月 34.5%
②地域人材を育成する高校としての活動指標（アウトプット）		
ア 地域課題研究又は発展的な実践の実施状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標		
目標の内容	目標値	進捗状況
「まちかど家庭科室～ふらっと～」に参加した生徒数	34 人	試作・準備・当日で全員が参加
学校外での実践的な学習活動の回数	7 回	17 回
イ 普及・促進に向けた取組の実施状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標		
発表会の実施回数	4 回	4 回 年度末までに 1 回予定
ホームページやライフデザインだよりへの掲載	80 回	66 回 ホームページ、ライフデザインだより
③地域人材を育成する地域としての活動指標（アウトプット）		
ア 地域人材を育成する地域としての活動の推進状況を測るものとして、管理機関において設定した地域人材を育成する地域としての活動指標		
目標の内容	目標値	進捗状況
地域の機関と連携して実施した活動（講演、料理講習会等）回数	5 回	12 回

地域課題研究に協働する地域の外部人材の参画状況	5回	8回
テレビ、新聞等、マスコミを通じて活動のアピールを行った回数	2回	事業の新聞への掲載は、2回
設定した目標のなかで、「②地域人材を育成する高校としての活動指標」「③地域人材を育成する地域としての活動指標」の項目は、概ね目標を達成できているが、「①本構想において実現する成果目標」の数値は、成果が現れつつあるとは判断できない項目がある。		

(4) 評価

本事業は、設定した数値目標を実現した上で、「地域の産業に従事し、生涯にわたって地域に貢献したいと考える生徒の育成」「地域課題を踏まえ、共生のまちづくりのパートナーとして高度な知識技能を身に付けようとする生徒の育成」「地域課題を踏まえ、多様な立場の人や機関と進んで関係を構築する生徒の育成」を目指している。

事業評価の指標として、年間3回実施予定の43項目の生徒アンケート【資料1】を分析した結果、【資料2】のとおり、本事業で育成を目指す「将来、自分の住んでいる地域のために役に立ちたいという気持ちがある」生徒の比率は、「自分が何かに挑戦しようと思ったとき、周りは手を差し伸べてくれる」「ありのままの自分が尊重される雰囲気がある」などの、自分の学びへの周囲のサポート環境の豊かさを感じている生徒ほど数値が高いことが分かった。

アンケート結果では、地域貢献の項目に肯定的な生徒は、7月 67.7%、11月 54.8%、1月の臨時調査で72.4%であり、数値に大きなばらつきがあり、目標とする生徒育成が十分に進んでいるかは判断できない。

【資料3】より、11月には、地域社会の魅力や課題について考える探究的な学習活動の頻度は倍増しており、とりわけ「地元企業の人と交流・議論・交渉する機会」は、大きく学習機会が増えている。このように活動の頻度が増してなお、およそ9割の生徒が課題探究的な活動に「熱心に取り組む」と回答しており、生徒のニーズや満足度が高いことが分かる。加えて、11月に「人と違うことが尊重される雰囲気がある」「誰かの挑戦に関わらせてもらえる機会がある」「立場や役割を超えて協働する機会がある」の肯定率が下がっていることから、アンケート中の安心安全・多様性といった周囲のサポート環境の豊かさを示す項目が、生徒の育成に影響を与えていることを意識した取組が必要である。

【資料4】のとおり、「課題探究的な学習の頻度」（アンケート項目1）と「学びの土壌」（アンケート項目3～43）、生徒の成長（アンケート項目18～22）には相関関係がある。この分析から、「学びの土壌」のポイントが高い生徒の方が、「課題探究的な学習」を頻繁に取り入れた場合に、より生徒の成長を図る項目の数値が高いという結果が出ている。

【資料1】生徒アンケートを実施する43項目（7月、11月、3月の年間3回実施）

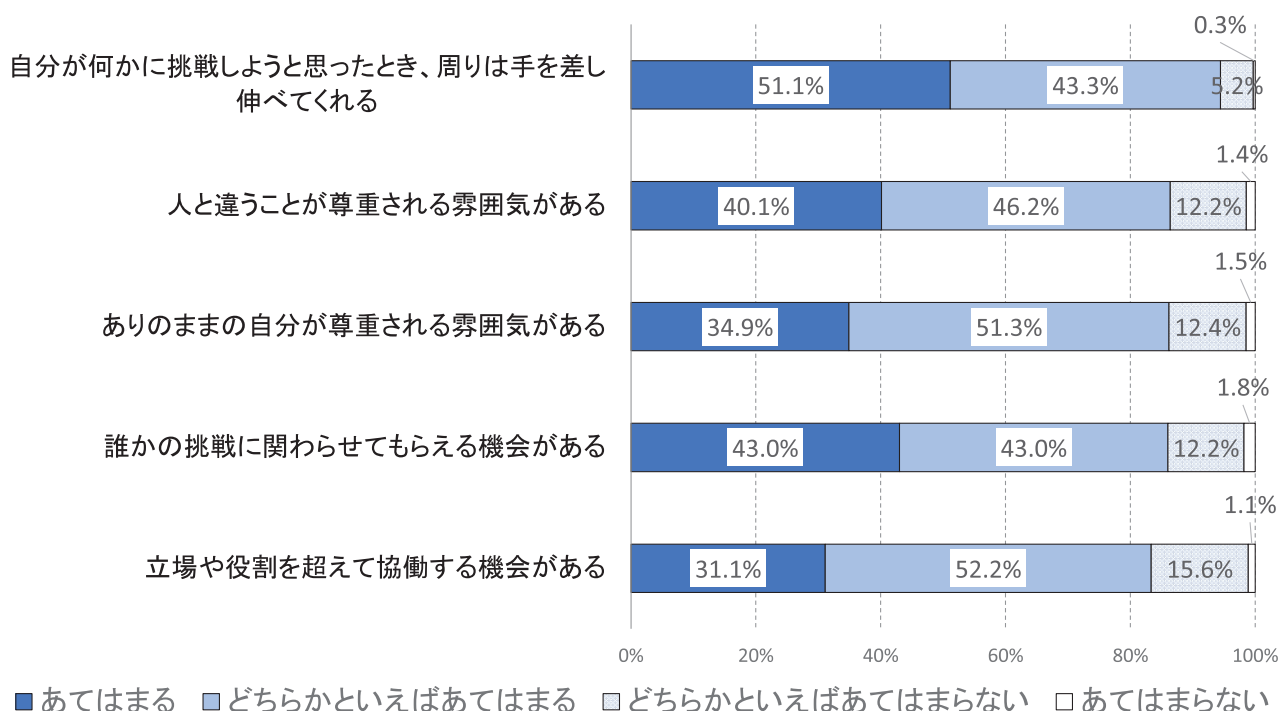
探究	1地域社会の魅力や課題について考える学習活動の頻度	安心安全	23失敗してもよいという安全・安心な雰囲気がある
	2上記のような学習活動への熱心さ		24挑戦する人に対して、応援する雰囲気がある
生徒の成長	18将来の国や地域の担い手として積極的に政策決定に参加したい	安心安全	25目標や当事者意識を持って挑戦している人がある
	19地域をよりよくするため、私は地域における問題に関与したい		26尊敬している・憧れている人がある
	20自分の住んでいる地域をよくするために何をすべきか考えることがある		27誰かの挑戦に関わらせてもらえる機会がある
	21将来、自分の住んでいる地域のために役に立ちたいという気持ちがある		28自分が何かに挑戦しようと思ったとき、周りは手を差し伸べてくれる
	22私の参加により、変えてほしい社会現象が少し変えられるかもしれない		29人と違うことが尊重される雰囲気がある
学びの土壌	3地域の人と交流・議論・交渉する機会	学びの土壌	30ありのままの自分が尊重される雰囲気がある
	4地元企業の人と交流・議論・交渉する機会		31様々な立場や役割を持つ人との関わりがある
	5学校の先生と交流・議論・交渉する機会		32様々な意見や価値観を持つ人との関わりがある
	6地域の仕事について知る機会		33立場や役割を超えて協働する機会がある
	7地域の文化について知る機会		34意見や価値観を超えて協働する機会がある
	8地域の魅力について知る機会	対話	35本音を気兼ねなく発言できる雰囲気がある
	9地域の課題について知る機会		36将来のことや実現したいことを話し合える人がある
	10信頼できる学校の先生がいる		37周りの大人は、じっくりと話を聞き、考える手助けをしてくれる
	11尊敬できる学校の先生がいる		38行動を振り返り、見直す(内省する)機会がある
	12本音で接してくれる学校の先生がいる		39お互いに問いかけあう機会がある
	13本気で接してくれる学校の先生がいる	開かれた	40地域から大切にされている雰囲気を感じる
	14信頼できる地域の人がいる		41地域の人や地域課題など、興味を持ったことに対して、すぐに橋渡ししてくれる大人がいる
	15尊敬できる地域の人がいる		42地域の人や課題などの現場に直接触れる機会がある
	16本音で接してくれる地域の人がいる		43自分の暮らす地域を、外からの視点で考える機会がある
	17本気で接してくれる地域の人がいる		

※アンケートは4件法

課題探究的な活動に係る2項目 学びの土壌に係る36項目、生徒の成長に係る5項目

（三菱UFJリサーチ&コンサルティング「高校生と地域社会の関わりに係る実態調査」（2018）による）

【資料2】「将来、自分の住んでいる地域のために役に立ちたい」気持ちがある生徒に影響を与えた上位5項目（7月実施アンケートの分析より）

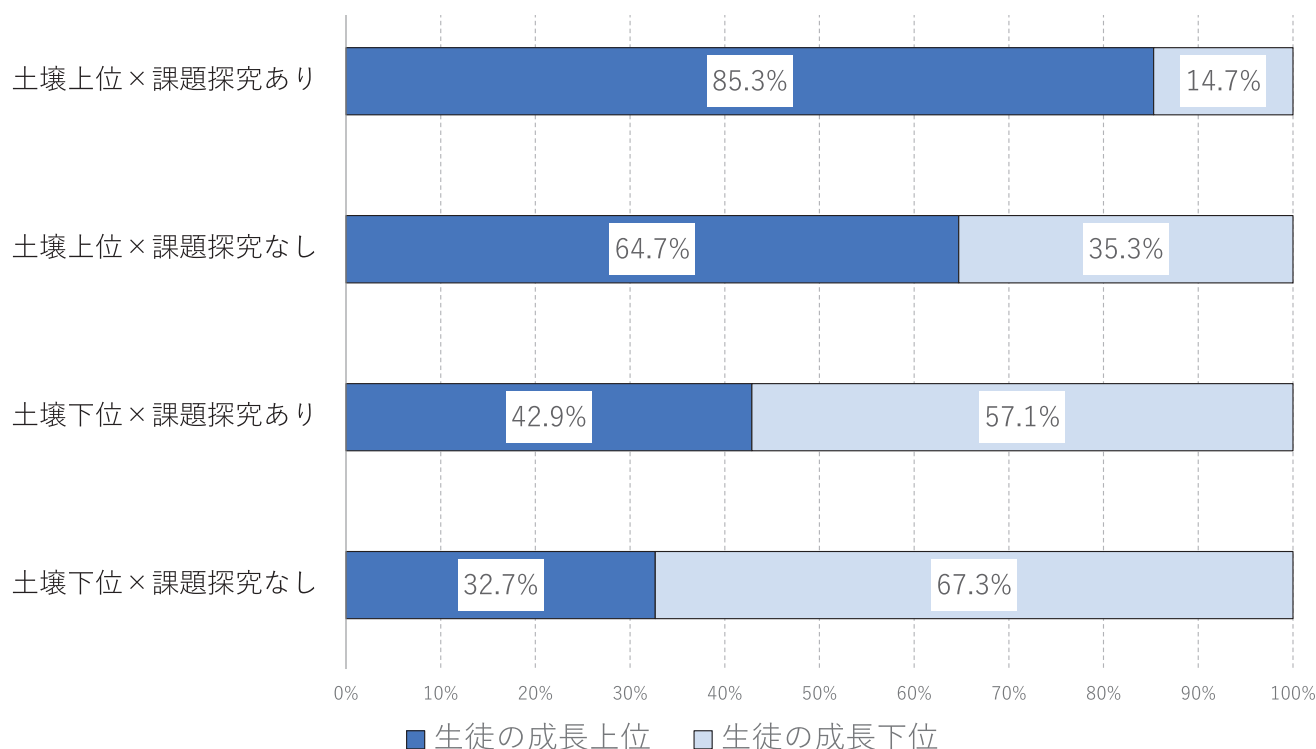


【資料3】生徒アンケート全項目の7月と11月の比較増減

	7月	11月	増減
1地域社会の魅力や課題について考える学習活動の頻度	32.3	64.5	32.3
2上記のような学習活動への熱心さ	87.1	87.1	0.0
3地域の人と交流・議論・交渉する機会	58.1	90.3	32.3
4地元企業の人と交流・議論・交渉する機会	35.5	90.3	54.8
5学校の先生と交流・議論・交渉する機会	71.0	96.8	25.8
6地域の仕事について知る機会	61.3	93.5	32.3
7地域の文化について知る機会	74.2	93.5	19.4
8地域の魅力について知る機会	67.7	93.5	25.8
9地域の課題について知る機会	61.3	93.5	32.3
10信頼できる学校の先生がいる	58.1	64.5	6.5
11尊敬できる学校の先生がいる	61.3	48.4	-12.9
12本音で接してくれる学校の先生がいる	54.8	67.7	12.9
13本気で接してくれる学校の先生がいる	51.6	74.2	22.6
14信頼できる地域の人がいる	51.6	35.5	-16.1
15尊敬できる地域の人がいる	35.5	32.3	-3.2
16本音で接してくれる地域の人がいる	35.5	29.0	-6.5
17本気で接してくれる地域の人がいる	35.5	25.8	-9.7
18将来の国や地域の担い手として積極的に政策決定に参加したい	48.4	41.9	-6.5
19地域をよりよくするため、私は地域における問題に関与したい	58.1	45.2	-12.9
20自分の住んでいる地域をよくするために何をすべきか考えることがある	64.5	38.7	-25.8
21将来、自分の住んでいる地域のために役に立ちたいという気持ちがある	67.7	54.8	-12.9
22私の参加により、変えてほしい社会現象が少し変えられるかもしれない	58.1	38.7	-19.4
23失敗してもよいという安全・安心な雰囲気がある	74.2	80.6	6.5
24挑戦する人に対して、応援する雰囲気がある	87.1	77.4	-9.7
25目標や当事者意識を持って挑戦している人がある	90.3	77.4	-12.9
26尊敬している・憧れている人がある	71.0	77.4	6.5
27誰かの挑戦に関わらせてもらえる機会がある	64.5	51.6	-12.9
28自分が何かに挑戦しようと思ったとき、周りは手を差し伸べてくれる	77.4	87.1	9.7
29人と違うことが尊重される雰囲気がある	64.5	61.3	-3.2
30 ありのままの自分が尊重される雰囲気がある	67.7	67.7	0.0
31 様々な立場や役割を持つ人との関わりがある	83.9	67.7	-16.1
32 様々な意見や価値観を持つ人との関わりがある	87.1	83.9	-3.2
33 立場や役割を超えて協働する機会がある	74.2	61.3	-12.9
34 意見や価値観を超えて協働する機会がある	71.0	54.8	-16.1
35 本音を気兼ねなく発言できる雰囲気がある	74.2	71.0	-3.2
36 将来のことや実現したいことを話し合える人がある	77.4	83.9	6.5
37 周りの大人は、じっくりと話を聞き、考える手助けをしてくれる	74.2	64.5	-9.7
38 行動を振り返り、見直す(内省する)機会がある	74.2	77.4	3.2
39 お互いに問いかけあう機会がある	77.4	67.7	-9.7
40 地域から大切にされている雰囲気を感じる	74.2	61.3	-12.9
41 地域の人や地域課題など、興味を持ったことに対して、すぐに橋渡しをしてくれる大人がいる	67.7	67.7	0.0
42 地域の人や課題などの現場に直接触れる機会がある	64.5	67.7	3.2
43 自分の暮らす地域を、外からの視点で考える機会がある	67.7	61.3	-6.5

※数字は肯定率（4「よくする／よくある／あてはまる」と3「時々する／時々ある／どちらかといえばあてはまる」の回答割合）を示す

【資料４】課題探究的な学習の頻度と学びの土壌、生徒の成長の関係性（７月実施アンケートの分析より）



※課題探究あり＝地域社会の魅力や課題について、自主的にテーマを設定し、フィールドワーク等を行いながら調べ、考える学習活動について「よくする」「時々する」と回答

※土壌下位＝学びの土壌得点 100 点(M:平均点)以下、成長下位＝生徒の成長得点 12.1 点(M:平均点)以下

2 次年度以降の課題及び改善点

- (1) 地域課題研究を各科目に位置付け、体系的・系統的に学習するカリキュラムの研究を進めることが本事業の目的の一つであるが、本年度は、地域の生活産業・生活文化を知り、地域課題を発見・解決する方法を広く学ぶために、地域人材を開拓しつつ活用することの繰り返しであった。そのため、該当科目である「課題研究」「生活産業基礎」に加え、1年生履修の家庭科科目である「家庭総合」「フードデザイン」、学校行事、課外活動などの中で、その都度活用可能な時間を見付けての事業実施であった。今後は、研究開発・地域人材開拓と同時に精選も行い、計画的に事業を実施できるようカリキュラム・マネジメントを進めたい。
- (2) 本年度は、椿・魚食・はだか麦など地域の生活産業・生活文化について基礎的な知識・技能を身に付けること、西条市内で行われた食に関する三つのコンテストへの参加・優勝、西条市小松地域における多世代交流などの事業を行い、一定の成果を上げることができた。今後は、椿・魚食・はだか麦の知識・技能を生かしたレシピ・製品開発、県や全国レベルのコンテストへの挑戦、生徒が企画から関わる形で多世代交流の実施などを目指したい。
- (3) 校内組織である研究推進委員会に、進路課長、教務課長、生徒課長、総務厚生課長が入っているものの、研究開発の中心は家庭科教員で、対象教科にも家庭科以外の教科は含まれていない。来年度に向けて学校全体での研究開発体制を構築するために、家庭科以外の教員の協力、家庭科以外の教科・科目の時間の利用計画を進めたい。そのため、本校教員に本事業内容のなかで興味を持って協力できる分野のアンケート調査を行い、準備を進めている。今後は、多くの教員の意見を反映させるようなワークショ

ップを行い、協力体制の構築を図りたい。

- (4) 高度な知識技能を身に付け、多様な立場の人や機関と関係を構築しつつ、地域に貢献したいと考える生徒を育成することが、本事業の目標の一つである。そのため、アンケートで生徒の現状を把握することに加え、生徒が、今まで行った事業についてどう感じているか、事業を発展させるためには何をすべきと考えているかなどを、振り返りのワークシートに書かれた文章の内容や必要に応じた個別の聞き取りによって細かく引き出すことが必要である。その内容を反映させ、より生徒が意欲を持って取り組めるよう、事業内容を改善していきたい。
- (5) コンソーシアムとの連携の在り方についての研究も本事業の目的の一つである。研究開発の成果を広め、地域の活性化を図るためには、現在コンソーシアムを構成する諸機関や、地域の飲食店・企業家・スポーツチーム他の官民の新たな諸機関との連携を模索していくことが重要と考える。そのなかで、将来にわたって継続できる持続可能な事業内容を検討して重点的に実施していくことが重要と考える。
- (6) 研究成果の発信方法は、本年度、ホームページが中心であったが、来年度は、マスコミの積極的活用に加え、インスタグラムなどのSNSの利用等も進めたい。

IV 関係資料

1 教育課程表

令和元年度 教育課程表

令和元年度入学（家庭科）

愛媛県立小松高等学校（全日制・本校）

区分		学科 コース	標準 単位数	ラ イ フ デ ザ イ ン				ヒ ュ ー マ ン サ ー ビ ス				
				1年	2年	3年	計	1年	2年	3年	計	
国語	国語総合	4	5			5	11	5			5	11
	国語表現	3			2	2				2	2	
	現代文B	4		2	2	4			2	2	4	
地理 歴史	世界史A	2	2			2	6	2			2	6
	日本史A	2			2	2				2	2	
	地理	2		2		2			2		2	
公民	現代社会	2		2		2	4		2		2	4
	政治・経済	2			2	2				2	2	
数学	数学Ⅰ	3	3			3	7	3			3	7
	数学A	2		2		2			2		2	
	数学研究B	2			2	2				2	2	
理科	科学と人間生活	2	2			2	6	2			2	6
	化学基礎	2			2	2				2	2	
	生物基礎	2		2		2			2		2	
保健 体育	体育	7～8	3	2	2	7	9	3	2	2	7	9
	保健	2	1	1		2		1	1		2	
芸術	音楽Ⅰ	2				0・2	3・5				0・2	3・5
	音楽Ⅱ	2				0・1					0・1	
	美術Ⅰ	2	2			0・2		2			0・2	
	美術Ⅱ	2		1		0・1			1		0・1	
	書道Ⅰ	2				0・2					0・2	
	書道Ⅱ	2				0・1					0・1	
	音楽探究	2			※2	0・2				※2	0・2	
	美術探究	2			※2	0・2				※2	0・2	
外国語	コミュニケーション英語Ⅰ	3	3			3	7・9	3			3	7・9
	コミュニケーション英語Ⅱ	4		2	2	4			2	2	4	
	英語表現Ⅰ	2			※2	0・2				※2	0・2	
家庭	家庭総合	4	3			3	3	3			3	3
共通教科・科目計			24	16	16・18	56・58	24	16	16・18	56・58		
商業	ビジネス基礎	2～4			※2	0・2	2・4			※2	0・2	2・4
	情報処理	2～6			2	2				2	2	
家庭	生活産業基礎	2	2			2	33	2			2	29
	課題研究	2～4	1	2	2	5		1	2	2	5	
	生活産業情報	2～4		2		2			2		2	
	子どもの発達と保育	2～6		3		3			3		3	
	子ども文化	2～4								2	2	
	生活と福祉	2～4		2		2			4		4	
	ファッション造形基礎	2～6	2	2	3	7		2	2		4	
	ファッション造形	2～10			△3	0・3				△3	0・3	
	ファッションデザイン	2～14			△3	0・3				△3	0・3	
	フードデザイン	2～6	2	2	3	7		2	2		4	
	調理	2～14			△3	0・3				△3	0・3	
福祉	ライフデザイン	2		2		2					4	
	介護福祉基礎	2～8							2	2		
福祉	こころとからだの理解	2～10							2	2		
									2	2		
専門教科・科目計			7	15	13・15	35・37	7	15	13・15	35・37		
小計			31	31	31	93	31	31	31	93		
総合的な探究の時間			3～6									
特別活動	ホームルーム活動		1	1	1	3	3	1	1	1	3	3
合計			32	32	32	96	32	32	32	96		
コース説明			衣食住・家庭などの生活課題について専門学習					高齢者福祉・乳幼児保育について専門学習				
履修学級数			1									
備考			(1・2年) ・芸術は、音楽Ⅰ・Ⅱ、美術Ⅰ・Ⅱ、書道Ⅰ・Ⅱから1組を選択履修する。 (3年) ・△印及び※印からそれぞれ1科目を選択履修する。 (注1) 共通教科「情報」は「生活産業情報」で代替する。 (注2) 「総合的な学習の時間」は「課題研究」で代替する。									

「愛媛新聞 2019 年（令和元年）8 月 12 日月曜日掲載」

西条市の高校生が地の西条高校前であり、元の飲食店と考案した小松高校・くらしとごかき氷のコンテストがはんりくチームが10、11の両日、明屋敷ランプリに輝いた。藩

自慢の水でかき氷競う

高校生・飲食店考案
西条でコンテスト

小松高が初代王者に



ツバキをモチーフにしたかき氷でグランプリに輝いた小松高校・くらしとごはんりくチーム

政時代から小松地域で親しまれているツバキの花を氷と深紅のシロップで見事に表現して

投票に加え、売り上げ

小松高3年の奈良紅緒

東予東部圏域振興イベント「さんさん物語」のサブプログラム「水の物語」の一環。市内の5高校が飲食店と協力し「うちぬき」の氷と地元食材を使った一品を販売した。延べ1

933人（主催者発表）が購入し、好みの品に1票を投じていった。小松高は食物部の5人で臨み、スモモと桃を煮詰めて、とろみのある鮮やかな発色のシロップを実現。流行食材のタヒオカなどを添え、丸く盛った氷に甘いツバキの花を映かせた。グランプリは購入者

や接客態度を考慮し、審査委員長でフードプロデューサーの中村新さんが決定。投票で1位だった西条農業高を、小松高が審査点で上回り、初代王者の栄冠を手にした。中村さんは「差はわずか。小松はチームワークがよく、一番成長を感じた」と講評した。小松高3年の奈良紅緒

さんは「優勝を信じて笑顔を決めた。接客しただけでうれしい」と笑顔でコメントした。トマト味のかき氷を開発した丹原高が特別賞を獲得。西条市長や市内の小中学生ら8人の審査員が各賞を贈った。各校のかき氷は市内の飲食店で販売される計画もある。

（中井美歩）

みせた。東予東部圏域振興イベント「さんさん物語」のサブプログラム「水の物語」の一環。市内の5高校が飲食店と協力し「うちぬき」の氷と地元食材を使った一品を販売した。延べ1

933人（主催者発表）が購入し、好みの品に1票を投じていった。小松高は食物部の5人で臨み、スモモと桃を煮詰めて、とろみのある鮮やかな発色のシロップを実現。流行食材のタヒオカなどを添え、丸く盛った氷に甘いツバキの花を映かせた。グランプリは購入者

や接客態度を考慮し、審査委員長でフードプロデューサーの中村新さんが決定。投票で1位だった西条農業高を、小松高が審査点で上回り、初代王者の栄冠を手にした。中村さんは「差はわずか。小松はチームワークがよく、一番成長を感じた」と講評した。小松高3年の奈良紅緒

さんは「優勝を信じて笑顔を決めた。接客しただけでうれしい」と笑顔でコメントした。トマト味のかき氷を開発した丹原高が特別賞を獲得。西条市長や市内の小中学生ら8人の審査員が各賞を贈った。各校のかき氷は市内の飲食店で販売される計画もある。

（中井美歩）

えひめさんさん物語

かき氷の売り場で接客する小松高校の生徒

かき氷の売り場で接客する小松高校の生徒

かき氷の売り場で接客する小松高校の生徒

かき氷の売り場で接客する小松高校の生徒

小松高校（左端）の指導で裸麦を使った
ピザを作る中学生ら



特産裸麦でピザ作り

西条・小松中学生に「未来塾」

西条市小松町新屋敷 座を開いている。

3日目は、小松高校
ライフデザイン科の生
徒が、特産の裸麦を使
ったピザ作り教室を開
催。中学生ら約60人は、
小麦粉で作った生地
に、高校生が考案した
マヨネーズやタマネギ
などを盛りつけて焼
き上げた。

塾は小松中学校と保
護者、公民館などが実
施して3年目。見聞を
広めて将来に生かして
もらうと、学習支援
に加えて専門家や市内
5高校の生徒による講

小松高は4月に文部
科学省の指定を受け、
地域と協働で特産品や
ツバキ文化を生かした
商品開発などに取り組
んでおり、開発中の裸
麦粉を使ったピザの試
食もあった。小松中1
年の真鍋ひかりさん
(13)は「生地に麦の味
がしっかりあっておい
しい。西条が県内一の
産地と知り、もっと料
理に使いたいと思っ
た」と話した。

(中井美歩)

「広報さいじょう 2019 8月号」

「広報さいじょう 2019 9月号」



小松高校×くらしとごはん リクル

まるごと Tsubaki

小松の名花である椿をモチーフに、本物の椿の葉を使用。スモモでピンク色を表現したり、種をイメージしてタピオカを使用したりして、見た目を椿のようにしました。優勝以外、視野にありません！

◎魚を使った料理コンテスト ブランドのハモで創作

8月3日、「魚を使った高校生料理コンテスト」が開催され、市内の高校生4チームが参加。地元でブランド化された「ハモ」を使った創作ワンプレート料理を作り、工夫を凝らした小松高校が優勝しました。



優勝した小松高校の皆さん

発行日 令和2年3月

発行者 愛媛県立小松高等学校

〒799-1101

愛媛県西条市小松町新屋敷乙42番地1

TEL (0898) 72-2731

FAX (0898) 72-3669

編集者 愛媛県立小松高等学校



小松高校イメージキャラクター
ようせいくん-つばき ver.-